

# ファミリーミニストリー

幸せな結婚と家庭のために

登戸教会

松原 洋満

## はじめに

「あなたにとって、一番大切なものは何ですか？」この問いかけに、あなたなら何と答えますか。ほとんどの日本人が、「それは私の家族です」と答えるそうです。それほど多くの方にとって家族は大切な存在です。

しかし、その大切な家庭は巨大な変化の波にさらされています。少子化と過保護・過干渉の問題、単身者の増加、核家族の孤立化、親の未成熟などによる虐待の増加、親の愛情を受けずに育つ子どもの増加、子どもの人格・精神障害の増加、離婚・再婚の増加、片親家庭の増加、自殺の増加、高齢化と老人介護の問題などなど、あげればきりがありません。

皆さんは、「がけの下に救急車を待機させておく」ことと、「がけの周囲に柵を作ること」のどちらが賢いと思いますか。「そりゃ、柵を作るほうです」とお答えになるでしょう。大きな問題が起こってから対処するよりも、問題が起こらないように予防するほうが賢いですよね。

これは現代日本の家庭に関しても、当てはまることではないでしょうか。現代の家庭生活はますますむずかしくなっています。教会が関わっている家庭も、先ほど見たような大きな変化の波にさらされています。従来の教会は、会堂内でのプログラムを中心に考えてきました。会堂を出た後の生活については、あまり関心を払ってきませんでした。しかし、ひとりの人の背後には家庭があります。背後にある家庭を考えるとなしに、ひとりの人に対して十分なミニストリーをおこなうことは不可能です。

どの教会でも、牧師は信徒の方々を心から助けようとしておられるでしょう。しかし、一人の牧師が、すべての家庭内の問題に関わることは不可能です。また、問題をかかえたすべての家庭が、専門家の助けを受けることも現実的ではありません。ですから、もっとも可能性のある方法は、問題に効果的に対処できるように各々の家庭を整えることです。

聖書が教える家族や結婚のあり方については、よい本がたくさん出版されています。また、現代日本の家庭を分析した本もたくさん出版されています。そういった中で、本書は各家庭で家族をどのように助けることができるか、教会が家庭をどのように助けることができるのかに焦点を当てています。

ファミリーミニストリーの分野は膨大なものですから、1冊で収めることはとても不

可能です。ですから、本書は全体の見取り図を示すことを意図しました。さらに詳しい内容は、巻末の参考文献をご覧ください。また、本書の各章は独立していますので、どの章から読んでくださっても結構です。関心のない章はとばして、必要とされるところをお読みください。

また、本書は完成したものではありません。目を通したい関係資料がたくさんありすぎていつ完成するのかわからないので、不完全ではありますがネットにのせることにしました。

本書において、ファミリーミニストリーとは、家族の人間関係を高めるために教会が提供するサービスを意味します。ファミリーミニストリーの目的は、家族が神の恵みの内に、神のデザインに従って生きる喜びを経験することによって、神をあがめることです。ファミリーミニストリーの前提になる考え方は、家庭内のほとんどの問題は、知識、情報、経験の不足によるものであるということです。ですから、適切な知識、情報、スキルトレーニングを提供すれば、大抵の問題は解決可能であるとの希望を持っています。

私はアメリカのゴードン・コンウェル神学校において、キリスト教教育を専攻しました。指導教授のダニエル・ジェッセン教授は、ファミリーミニストリーの専門家でした。私はこんな分野があることさえ知りませんでした。その内容の豊かさと重要性に驚きました。その後、トリニティー神学校の博士課程でもキリスト教教育の学びを続け、ここでもファミリーミニストリーの第一人者であるチャールズ・セル教授から学ぶ機会を与えられました。

私たちは進学や就職のために、いろいろ学んだり、資格をとったりします。スポーツ選手は、競技のために何年もの厳しいトレーニングを積みます。では、それ以上に重要な結婚や家庭のため、私たちはどれほどの準備と訓練をしているのでしょうか。本書の内容が、日本の家庭や教会に少しでも役に立つことを願っています。

# 目次

はじめに

- 第1章 なぜファミリーミニストリーは重要なのか
- 第2章 教会と家庭との関係
- 第3章 教会は家庭のために何ができるか
- 第4章 ファミリーライフサイクル
- 第5章 結婚への準備
- 第6章 豊かな結婚生活（マリッジ・エンリッチメント）
- 第7章 子育て
- 第8章 クリスマンホーム
- 第9章 さまざまな形態の家庭
- 第10章 機能不全家庭（ディスファンクショナル・ファミリー）
- 第11章 その他のテーマ
- 第12章 ファミリーミニストリーを実行する7ステップ

あとがき

参考文献

## 第1章 なぜファミリーミニストリーは重要なのか

この章では、3つの視点からファミリーミニストリーが重要な理由を考えてみたいと思います。一つ一つの理由をよく考えながら読んでいただければ、いかにファミリーミニストリーが必要不可欠なものであるかが、わかっていただけると思います。

### I. 聖書的、歴史的な理由

#### 1. 三位一体なる神

私たちの神は三位一体なる神です。各々の位格には、ある程度の独自性がみられます。父なる神は創造主・命の主、イエス・キリストは贖い主で命を新しくしてくださる方、聖霊は救いを人間に適用し維持してくださるお方です。それでいながら完全なる統一を持っておられます。

この神が人を「ご自身のかたちとして」（創世記 1:27）創造されました。そのため、人は三位一体なる神のご性質である「独自性」と「関係性」が与えられているのです。家族の中であって、夫、妻、子はそれぞれの独自性を保ちつつ、深い関係性を持つのです。

#### 2. 聖書の著者たちは家庭の比喩を用いている

聖書の著者たちは、神や教会、クリスチャンについて語る場合に、家庭生活の比喩を用いています。神はご自分と人類との関係を表すために、「父」という概念を選ばれました（旧約に 6 回、新約に 28 回）。イエスは神を「アバ（父）」（マルコ 14:36）と呼び、弟子たちに「天の父」に祈ることを教えました（マタイ 6:9）。放蕩息子のたとえ話の中では、神は愛する父親として描かれています。また、聖書の中には神が母としてのイメージでも描かれています（イザヤ 66:12-13、マタイ 23:37）。

イエス・キリストは「いと高き方の子」（ルカ 1:32）、「神の子」（ヘブル 4:14）と呼ばれています。教会はキリストの花嫁として描かれています（エペソ 5:32）。クリスチャンは自分たちを「神の子ども」（1ヨハネ 3:1）とみなし、お互いに兄弟、姉妹と呼びました。イエスは、兄弟姉妹の中の「長子」（ローマ 8:29、ヘブル 1:6）と呼ばれています。

以上のことからわかるように、私たちがよい家庭を築けば築くほど、私たちは神

のご性質や神と被造物との関係を理解することができるのです。

### 3. 神は家庭を創造された

神が最初の家族であるアダムとエバを創造されました。神は最初の家族のミニスター（牧会者）として、どのように生きるべきかを指導されました。男と女は互いに必要を満たし合い、神の目的を達成するために創造されました。イエスも神が結婚に対して持つておられた当初の意図を再確認されました(マタイ 19:3-9、マルコ 10:2-12)。

家庭はすべての時代、すべての文化で社会の基本的な単位となってきました。ソ連などが取り組んだ家庭システムをなくす試みは、ことごとく失敗しました。家庭システムは神が創造されたものなので、現在でも大変重要なのです。

### 4. 初期ヘブライ文化では家庭が重要だった

初期のヘブライ文化においては、家庭が社会を築くブロックの役割を果たしていました。「父の家」が部族やイスラエル国家の社会秩序の基礎でした。旧約聖書の家計図が示しているように、ヘブル人のアイデンティティは、自分の家族の祖先がアブラハム、イサク、ヤコブの子どもであることでした(出エジプト 3:15、イザヤ 51:2 など)。

ヘブル人がイスラエルの地に定着した後も、自分たちの家族制度を熱心に維持しました。家庭はイスラエルの人々にアイデンティティを与えただけでなく、一つの世代から次の世代へ歴史と信仰を運ぶ重要な手段でした。家庭は子どもにとっての一番重要な学習の場と見なされ、両親は子どもを信仰によって育てるように忠告されています(申命記 6:7-9)。

### 5. イエスは家族関係に関心を持っておられた

主イエスは、神の家族は血縁に制限されるものではなく、神のみ心をおこなう人たちであると言われました(マルコ 3:34-35)。それにもかかわらず、主イエスは家族関係の重要性を強調しておられます。第一に、前にも書きましたが、主イエスは神の結婚に対する最初の意図を確認されました(マタイ 19:3-9、マルコ 10:2-12)。

第二に、主イエスは子としての責任を強調しています。イエスは神への供え物にした故に両親にあげることができないという習慣を批判されました(マタイ 15:2-6)。また子どもは両親をうやまうべきであるという神の命令を何度も繰り返されました。

第三に、イエスは十字架につけられているときも、ご自分の母への愛を示され、弟子の一人に母を世話してくれるように頼みました(ヨハネ 19:26-27)。

第四に、イエスはいやしを通して、家族関係の大切さを示されました。イエスは悪

霊を追い出してもらった男の人に、「あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」(マルコ 5:19)とされました。イエスはひとり息子を亡くした母親を見てかわいそうに思い、「泣かなくてもよい」と言われて、息子をよみがえらせました(ルカ 7:12-15)。その他にも、ペテロの義母をいやされ、思い皮膚病の人をいやして家族に返されたり、病気の子どもをいやし、目が見えない人や耳の聞こえない人をいやされました。こういった人々は大きな不安や損失を経験していましたが、主イエスにいやされて家族が回復されました。

## 6. 初代教会は家庭を土台としていた

初代教会の家庭は、聖徒の入用に協力し、旅人をもてなすために開かれていました(ローマ 12:13)。最初の教会は家の教会でした。そこではクリスチャンたちが集まり、食事をし、賛美し、祈りをささげていました。パウロの宣教活動は、家庭の重要性を教えています。伝道旅行の間中、パウロはクリスチャンの家庭に宿泊しました(ローマ 16:3-5)。初期に救われた人の中にプリスキラとアクラがいました。パウロは彼らの家庭に助けられました(使徒 18:3)。

## II. 教会論的理由

### 1. ファミリーミニストリーは効果的伝道手段である

ファミリーミニストリーは、前段階の伝道(プレ・エバンジェリズム)になります。家庭を豊かにする働きは、一般の人にも抵抗が少なく、高い関心を持ってもらえます。妊娠、出産という創造の業に参加しているお母さん方は、神の真理に対して心を開きやすくなっています。そのため、宗教的偏見を打ち砕くために役立ちます。誰もがよい家庭やよい人間関係を望んでいます。人々は自分たちのニーズが応えられるなら、家族の問題の解決を助けてくれるクリスチャンに耳を傾けてくれます。

### 2. ファミリーミニストリーは教会を聖書的にする

プロテスタント教会は、一般のビジネス世界と同様に、制度化と仕事中心のアプローチに従ってきました。交わりの中に家族の豊かさを確立することをおろそかにしてきました。その結果、人間関係は表面的になりがちです。教会が要求する時間は、家庭の時間と競合し、しばしば家族関係を妨げることになっています。

ファミリーミニストリーは、教会が聖書的な生き方に近づく助けになります。教会が家庭を大切にし、教会の中も家庭的なよき交わりが可能になります。

### 3. ファミリーミニストリーは靈的成長を促す

ファミリーミニストリーはクリスチャン共同体を築くための効果的な手段であり、共同体の中での靈的成長も促進します。人が靈的に成長するためには、家庭のように愛し合い、許し合い、訓練し合う関係が必要です。その点、小さな教会やスモールグループは、愛し合い、助け合う共同体になり得る大きな可能性を持っています。

私たちがキリストに結びつけてくださる聖霊は、私たちがキリストの体である教会にも結びつけてくださいます。聖書は、信仰者が他の信仰者と離れて暮らすようには教えていません。私たちの誰もが持っている弱さ、欠陥、問題などは、キリストの体の他のメンバーによって補われ、支えられ、いやされるのです。

すべての靈的賜物は、「みなのため」(1コリント 12:7) 与えられています。すべてのメンバーは、キリストの体を建て上げるために、お互いを必要としています(1コリント 12:22-26 ; 14:15)。「体を建て上げる」ことは、個々の靈的成長を含んでいます。礼拝、相互の教育、伝道や奉仕に参加することなどを通して、教会は靈的に成長していきます。このように、個々の靈性と教会全体の靈性は相互に関連しているのです。それはちょうど細胞一つ一つの健康と、体全体の健康が相互に関連しているようなものです。

ファミリーミニストリーが健全な人間関係を養うことになり、それが家庭や教会での靈的成長を促進することにもなるのです。

### 4. 家庭が安定していると教会も安定する

家族はクリスチャン生活の実験室です。パウロはテモテに、監督の資格について次のように書いています。「自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。—自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができるでしょう。—」(1テモテ 3:4-5)。もしクリスチャンが自分の家庭の中で信仰に生きることができないのなら、教会の中でもできないでしょう。クリスチャンホームは、ある意味で教会そのものです。強固な教会は、強固な家庭から成り立っています。

### 5. ファミリーミニストリーは大宣教命令を実現する

教会の一つの目的は、大宣教命令を実現することです(マタイ 28:19-20)。教会にお



ける弟子づくり、バプテスマ、教えることは、家庭における人間関係をつくること、社会化、価値観を築くことに対応します。教会がその中にある家庭を強めるとき、教会は大宣教命令を実現するという目的を効果的に達成することにつながるのです。

### Ⅲ. 心理学的、社会学的理由

#### 1. 家庭は理想的な教育環境である

家庭はあらゆるタイプの教育がなされるうえで理想的な環境です。家庭では三種類の教育がなされます。第一に、非言語的・関係的教育です。これは言葉によらず、モデルを見せることによる教育です。私たちの行為、態度、生活のすべてが、家庭のメンバーに強い影響を及ぼすのです。

第二に、状況的教育です。親は子どもの成長過程をずっと共にいて、多くの面を見ることが出来ます。親は子どもたちの生活の中で、教育できる瞬間（teachable moments）を用いることができるのです。

第三に、家庭では非公式的教育（non-formal education）がおこなわれます。家庭は実際の経験から学ぶ実験場です。こういった三種類の教育は、どのような機関や場よりも、家庭でもっとも強力におこなわれうるのです。

#### 2. 家庭は「社会化」にとって最も重要な場である

私たちは社会化（socialization）によって、社会の価値観や規範を学びます。それで私たちは社会の中で生きていくことができるのです。私たちは、家庭、学校、メディアなどによって社会化されますが、中でも家庭は最良の場です。なぜなら、子どもたちは価値や規範を最も身につけやすい年代を家庭で過ごすからです。そして、多くの場合、家庭はもっとも長続きする人間関係を提供してくれるのです。

家庭の中で子どもたちは社会化されます。子どもたちは自分を家族の一部とみなすので、家庭のあり方が自分自身の一部分になるのです。家庭によって、最初の価値観、規範、行為を学び、それをもって他の人の価値、規範、行為を評価するのです。家庭での人間関係が、他の人との人間関係のあり方を教えるのです。

#### 3. 家庭は性教育に重要である

性は、創造の秩序として神がくださった贈り物です。家庭は意識的にも無意識的にも人が性的存在として発達していく場です。男性と女性それぞれに期待される態度や

行動を、親の生き方を見て子どもは学びます。自分の体や他の人の体に対する基本的な態度も、無意識のうちに家庭で学びます。家庭は、子どもたちが自分の性的アイデンティティを受容し、理解し、価値づける場です。

#### 4. 変化していく家庭は助けを必要としている

多くの要因や現象が家庭に影響を与えます。たとえば、産業化、都市化、技術、消費社会、家庭内でのサービスの外注化、性差の解消、知識の爆発的増加、移動社会、長寿化、晩婚化など。

そして家庭は多くの面で変化してきました。たとえば、結婚の不安定化、離婚の増加、母子・父子家庭の増加、共働きの増加、非婚カップル・再婚家庭の増加、しつけの欠如、性的役割の流動化、少子化、高齢化など。

こういった中で、多くの家庭がフラストレーションや不安を抱えています。機能不全家庭で育った人は同じような問題のある家庭を生み出しやすい傾向があります。そのため、家庭生活は崩壊の下降らせんに入っているといても過言ではないでしょう。

しかしながら、私たちには希望があります。そういった負の連鎖を止めることはむずかしいことですが、不可能ではありません。神は家庭のあらゆる状況に関わってください。教会は家庭を支え、人々にキリストにある希望を与える責任があります。

#### 5. ファミリーミニストリーは問題を防ぐことができる

家庭の問題は、膨大な時間とエネルギーを吸い取ります。しかし、人々に必要な知識とスキルを備えさせることによって、そういった問題をある程度防ぐことができます。がけ下に救急車を用意しておくよりも、がけの周りにフェンスを築くほうが賢い選択でしょう。ファミリーミニストリーも同様です。ファミリーミニストリーは、問題が生じてから対処するよりもはるかに効果的です。

## 第2章 教会と家庭との関係

日本の教会は、個人とは関わってきましたが、その背後にある家庭のことはあまり考えてきませんでした。この章では、教会と家庭との関係について簡単に整理してみました。

### 家庭の責任

#### 1. キリストのもとに生きる

家族がおこなうすべてのことは、キリストが家庭のかしらであるという確信に導かれてなされるべきです。エペソ 5:23 「なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。」

#### 2. 交わりを与える

クリスチャンの結婚は、「ふたりの者が一心同体になる」(マタイ 19:5) という真理の上に成り立っています。この親密さが、クリスチャンホームの中心になります。家族は、受容と喜びという人間の深いニーズを満たすとともに、クリスチャンの成長、奉仕、伝道を支える環境を提供します。

#### 3. 子どもの信仰を養う

申命記 6:6-7 は、霊的成長の基本的な場は家庭であることを教えてくれています。親の最大の責任は、子どもを信仰者として成長させることです。

#### 4. より大きな信仰の家族である教会に参加する

クリスチャンホームとしての役割を果たすためには、教会の共同体に所属することが必要です。一つの家庭では対応できない要求に応じたり、危機に直面した場合も、教会の支援と交わりによって支えられます。

### 教会の責任

#### 1. 神の家族である

教会の第一の召しは、プログラムを行うこと (doing) ではなく、神の家族であること (being) です。独身者、身寄りのない人も含めた家庭です。この点に関しては、のちに詳しく説明します。

#### 2. 家族の人々にクリスチャンとしての生き方を教える

教会のもっとも重要な教育的課題は、聖書が家族について教えていることを理解し実践できるように助けることです。そうすれば、一人一人が家庭において自分の責任をよりよく果たすことができるようになります。

### 3. 家庭をサポートする

教会は、教会に集う人々が互いに分かち合い、助け合うことができるようにする必要があります。各家庭をサポートすることが大切です。

### 4. 家族に関する情報を提供する

教会は、すべての世代の人々が互いに理解し合えるように、情報を提供する必要があります。現代の家庭が抱えるニーズや問題に対して、聖書の知恵と解決法を提供する責任があります。

### 5. 地域に届く

教会は、その地域にあつて教会に所属していない人々をサポートすることも大切です。それが神様の愛を伝えることになり、伝道になります。

## 教会と家庭の共通の特徴

### 1. 教会と家庭は共に神が創られた組織である

家庭は人間が創造された目的を達成できるように神が最初に創造されたものです。教会は、イエス・キリストを信じる信仰によって再創造された者たちを養い、この世界における神の目的を達成するために神が設立されたものです。

このように、教会と家庭は神の創造の目的において、共通の起源を持っているのです。したがって、教会と家庭はクリスチャン共同体の中で、等しく支えられ、神様のあがないの業における相互連盟として尊ばれるべきものです。

### 2. 教会と家庭は同じ目的を持っている

教会と家庭は、メンバーを神にある真の平安と成熟へ導くという目的を持っています。目的の達成に近づいている家族は、つまりくことなく、右にも左にもそれません（箴言 4:12、27）。年老いても、神の道から離れません（箴言 22:6）。

教会も同様に、神を認めない世界の教えと環境の中にあつて、容易にほんろうされず、キリストとその家族にしっかりと結び合わされた人を育てることを目的としています（エペソ 4:14-16）。

### 3. 教会と家庭は、霊的成長において同じ過程を通る

私たちはすべて、言葉で教えられ、従うべき模範を示され、学んだことを実生活に適用することによって身につけていきます。箴言 6章と第 2 テモテは、それぞれ家庭

と教会とにおける霊的成長が、同じ過程を通ることを示しています。

#### 4. 教会と家庭には、神の言葉が与えられている

教会と家庭は、メンバーを霊的な成熟に導くために、「神の言葉」という同じ内容を与えられています。

#### 5. 教会と家庭は、同じ霊的な助けを与えられている

神は親と霊的リーダーたちに、神の知恵、導きと権威の一部を委ねています。復活されたキリストは、教会と家庭を共に内より強め続けておられます。ご聖霊は、霊的成熟の働きのために、教会と家庭を共に整え、助言を与えられます。

### 家庭の長所（教会と比較して）

1. 家庭は、他のどのような機関よりも永続する人間関係を形成するところです。
2. 人々は、一般的に家庭においてもっとも長い時間を過ごします。
3. 家庭は、自分の信仰を試すためのもっともふさわしい実験場といえます。家庭においては、ストレスのある状況、突然の変化、複雑なやりくり、必要や関心の衝突などが一般的に起こるので、信仰が生きているかどうか問われる場です。

### 教会の長所（家庭と比較して）

1. 教会の多くのプログラムは、世代別のグループに分かれているため同質性があり、効果的な教育がなされます。
2. 教会の構成員は、家庭をはるかに超えるバラエティーに富んでいます。一人一人がさまざまな背景を持っています。性別、年齢、適性、関心、霊的成熟度、重荷など、さまざまです。さらに、御霊の賜物も異なります。そういった人々が一つの教会に集い、キリストにある成長を助け合うことができるのです。

### 教会と家庭との間の問題

1. 教会は、しばしば家庭の時間とエネルギーを奪っています。「教会の奉仕やプログラムを支えるために家庭は存在する」という印象を教会は与えています。
2. 教会のプログラムは、しばしば家族が共にいることを妨げています。たとえば、日曜日の礼拝で子どもたちは親と共に礼拝することがまれです。若者は自分たちだけの活動があります。親は他の大人とだけ時間を過ごします。

3. 新婚の人や小さな子どもがいる親を、教会奉仕で忙しくさせる場合もあります。
4. 教会はしばしば親に代わる役割を持っているようにふるまっています。本来は、親がすべき教育や活動を、教会が代わりに提供している面があります。
5. 教会において、クリスチャンたちは聖書や神学的知識を実生活に適用できるように充分には整えられていません。礼拝でメッセージを聞きますが、その内容が実際に家庭生活で生かされるまでの教育や訓練はされていません。

### **教会と家庭とのパートナーシップの原則**

以上見てきましたように、教会と家庭は共に神が創られた組織で、共通の目的を持っています。ですから、教会と家庭を切り離して考えることは間違いなのです。時間やエネルギーの奪い合いは、互いに助け合うことになりません。

教会と家庭は、密なコミュニケーションをとりつつ、互いに仕え合い、とりなし、励ましとサポートを与え合うことが大切です。そして、互いに問題解決のために協力します。教会は家庭を必要としており、家庭は教会を必要としているのです。

### 第3章 教会は家庭のために何ができるか

この章では、教会が家庭のために何ができるかを、6つの点から考えてみましょう。

#### 1. 教会が「神の家族」(エペソ2:19)であると信じられるようにする

ファミリーミニストリーで一番大切なことは、教会の性質・あり方であって、個々の活動ではありません。ですから、さまざまなプログラムを考える前に、教会の環境を整えることが大切です。まず大切なのは、実際に人々が感じることでできる雰囲気であり、人々の関係のあり方であり、リーダーたちが示す模範です。ひとことで言うと、神の家族であることを信じられる教会になることです。スポーツ選手が自分の競技を学ぶ最善の方法は、実際に競技をすることです。同様に、よい家庭を築くためには、神の家庭である教会に参加することです。

人は単に教わるだけでは変わりません。人が変わるのは、暖かく受け入れられ、交わりがなされる中で、他の人を真似るようになっていくのです。自分が愛され、受け入れられていると感じられる環境の中で、人は初めて自分の問題や傷、失敗を打ち明けることができるのです。それがいやしと成長につながります。

神の家族であることを信じられる教会は、「あなたが困難に陥ったら、私たちはそれを理解し、助けます」という思いを伝えます。その方法の一つは、教会が実際にやっているプログラムや集会です。問題に直面している人を助けるグループがある教会は、そういった人を助けることに関心があることを示しています。

教会が神の家族であることを信じられるようにするためには、教会のリーダーたちがよい家庭生活のモデルを示すことです。そうすれば、教会の人たちも自然とそれに見習うようになるでしょう。また、リーダーたちは、よい人間関係のモデルを示すことも大切です。

教会が神の家族としての環境を提供できることは、大変貴重です。子どもたちにとっては、自分の親以外の成人クリスチャンと接することは大切です。核家族にとっては、普段機会が少なくなっている世代を超えた交流もできます。独身者や片親家庭にいる人も、家庭の雰囲気を体験できます。また、自分の家庭にクリスチャンがいない人にも、クリスチャン家庭のすばらしさを経験してもらえます。

教会が神の家族であると信じられるために、いくつかの具体的な提案をします。

- ・教会行事によって家庭の時間を奪いすぎているかどうか、従来のプログラムを再

検討します。

- ・礼拝の中で、互いにあいさつする時を持ちます。
- ・集会前後に交わりができるスペースと時間をとります。そのために、会堂入り口付近に大きなロビーを設けたり、交わりができる場所とお茶を用意するとよいでしょう。
- ・互いによく知り合うために、礼拝後に昼食の時間を持ちます。
- ・大きな規模の教会では、スモールグループを活用することによって、親しい人間関係を築くことができます。
- ・教会全体で、メンバーの誕生日や結婚記念日をお祝いします。
- ・教会に来ていない家族の誕生日に、カードやお花などのプレゼントを贈ります。
- ・母の日、父の日、子どもの日、敬老の日などの機会に、家族について考えたり、感謝を表したりします。
- ・アドベント、クリスマス、レント、イースター、ペンテコステなどを教会全体でお祝いしたり、共に過ごしたりします。
- ・子ども祝福式をおこないます。
- ・親子食事会、ピクニック、家族レクリエーション、地域奉仕活動、教会堂のそうじなどを、家族ぐるみでおこないます。
- ・献児式、洗礼式、結婚式などを教会全体でお祝いします。
- ・お葬式を教会全体で心よりとりおこないます。
- ・週報や月報、あるいは別の定期的に配布する印刷物に、家庭に関することをのせます。たとえば、教会員の家族紹介、家族の一番の思い出、家族でしたいこと、絵やイラスト、エッセイなどを書きます。
- ・1年のうちの1週間をファミリーウィークとして、家庭を強めるプログラムをおこないます。時期としては、5月の第1週か第2週、子どもの日や母の日などがある時はどうでしょうか。

## 2. 教える

教会は、神様が家庭に対して意図し計画されていることを教えます。教えるために、もっとも一般的に考えられる手段は、礼拝メッセージでしょう。メッセージの中で、聖書から家庭や結婚について語ったり、家庭の例話を用います。メッセージは多くの人に届き、意識を高めたり、基礎を築くことができます。

次に考えられるのは、教会学校です。教会学校で家庭や結婚について教えます。また、できれば子どもたちの両親も関われるように工夫したり、親のためのクラス、家族向けのクラスをつくとよいでしょう。



さらに聖書研究会の場で、聖書から結婚や家庭について教える機会を持つことができます。その他にも、いろいろな教える機会が考えられると思います。

### 3. スキルを身につけさせる

残念ながら、人間は正しい知識があれば正しい行動ができるわけではありません。神が望まれる家庭を築くためには、聖書を知的に理解するだけでは不十分です。実際にスキルを身につける必要があります。後で詳しく説明しますが、主なスキルとしては、コミュニケーション、コンフリクトマネジメント（衝突対処）などがあげられます。

スキルは実際に見ること、経験すること、特に繰り返し練習することによって身につきます。実際に見る例としては、教会内で、いくつかの家族に自分たちの家庭礼拝を実際にやってもらったり、一つの家族が別の家族を訪れて、その家庭の家庭礼拝に参加したりすることが考えられます。

スキルを身につけるためには、実例を用いて考えるケーススタディ、いろいろな立場になって実際にやってみるロールプレイ、その他、さまざまな練習を実際にやってみることが必要です。具体的なことは、後の章で説明します。

### 4. サポートする

教会が家庭をサポートする方法としては、カウンセリングとサポートグループが考えられます。

一般的なカウンセリングは、問題が生じた後におこなわれる治療的なカウンセリングです。治療的なカウンセリングを提供するには、専門的なトレーニングを受けた人が必要になります。教会は治療的なカウンセリングを提供できれば、それもよいことですが、予防的カウンセリングに力を入れることがより重要です。問題が起こる前や程度が軽いうちにカウンセリングを提供します。そうすれば多くの家庭が、深刻な問題で悩み続けることを防ぐことができます。具体的には、結婚前カウンセリング、結婚後のフォローアップ、子育て中のお母さん方の相談にのることなどが考えられます。

サポートグループは、共通の関心や問題をかかえている人たちがスモールグループをつくって、互いに学びあい、励まし合います。どのようなサポートグループが必要であり、可能であるかは、それぞれの教会に集っている人のニーズによって決まります。たとえば、離婚経験者、片親家庭、幼児を持った親、十代の子を持った親など、あらゆる可能性があります。

## 5. 情報を提供する

教会は、家庭に必要な情報や資料を提供することも大切です。教会によい資料をそろえましょう。家庭に関する書籍、DVD など。また、実際には購入しなくても、家庭礼拝のアイデアや教材、家庭に推薦できる本、映画、ゲームなどを紹介することもできます。

さらに、その時々に関心のある映画やテレビ番組、ゲームなどをクリスチャンの立場から評価し、コメントを伝えることも家庭を助けることになります。この点に関しては、本書のメディアリテラシーの項目を参考にしてください。

## 6. 地域にキリストの愛を届ける

教会が置かれている地域の家庭を助けることも、大切な役割であり、伝道の基盤をつくることになります。具体的には、以下のようなことが考えられます。

- ・未就園児対象の自主保育を始める
- ・幼稚園、保育園を始める
- ・学童保育を始める
- ・遊びの場・居場所を提供する
- ・カウンセリングを提供する
- ・デイケアを始める
- ・家族に関するセミナー、講演会を催す

## 第4章 ファミリーライフサイクル

家庭は、時間の経過にしたがって変化していきます。これをファミリーライフサイクルと呼びます。ファミリーライフサイクルは、いくつものステージに分けられます。各ステージは異なっており、普通は一定の順で移行していきます。複数の子どもがいる場合は、いろいろなステージが重なり合う期間がありますが、一般的には最初の子どもによってステージを決定します。

この章で説明するファミリーライフサイクルは、あくまでも典型的な例ですので、当てはまらない場合もあります。しかし、ファミリーライフサイクルは、各ステージにある家庭の課題を理解し、教会のプログラムを計画するうえで大変役に立ちます。

ステージ	最初の子の年齢	およその期間
1. 独身	いない	さまざま
2. 結婚初期	いない	2年
3. 最初の子	0～2歳	3年
4. 幼稚園の子どもがいる家庭	3～5歳	3年
5. 小学生の子どもがいる家庭	6～11歳	6年
6. 十代の子どもがいる家庭	12～18歳	7年
7. 子どもが家から出て行きつつある家庭	さまざま	8年
8. 中年期の家庭(「空の巣」から引退まで)	独立	5年
9. 引退した家庭		10～15年
10. 一方の配偶者を亡くした家庭		さまざま

### 各ステージにおけるニーズ

それぞれの家庭は、最初の子の成長に伴って、未知の課題に向き合うこととなります。どの家庭もライフサイクルの各ステージにおいて、また一つのステージから次のステージに移行する場合に、さまざまな課題に直面します。課題を達成することによって、その家族の結束は高まり、さらなるチャレンジに向き合うことが可能になるのです。

## 1. 独身

- ・自分の家庭から独立する（これは、自己を確立して他の人と相互依存的関係を築けるようになるためです。）
- ・就職（生き方の選択）
- ・結婚するかしないかの選択
- ・この世においてクリスチャンのライフスタイルを維持する

## 2. 結婚初期（子どもなし）

今後のステージの健全な土台を築くために大切なステージです。できれば2～5年間、夫婦だけで基礎を固める期間があると望ましいです。

- ・自分たちの家庭を築く
- ・結婚した新しい役割に適応する
- ・仕事や家事の分担をする・予算を立てる
- ・コミュニケーションのスキルを育てる
- ・情緒的、性的な親密さを育てる
- ・理想から現実への移行。実際の配偶者を受け入れる
- ・親族との関係に適応する
- ・自分の家庭のアイデンティティと伝統を形成する
- ・妊娠と親になる備え
- ・教会活動や霊的成長を決める

## 3. 最初の子      4. 幼稚園の子どもがいる家庭

- ・満足のいく夫婦関係を維持しながら、子育てをするというバランスをとる
- ・母親、父親という役割を身につける
- ・親も子も満足できる家庭を築く
- ・エネルギーの消耗と親としてのプライバシーの欠如に対処する
- ・同年代の子どもを持つ家庭との付き合い

## 5. 小学生の子どもがいる家庭

- ・子どもを自立させる
- ・同年代の子どもを持つ家庭との付き合い
- ・子育てや仕事が忙しい中で、夫婦の同労者意識を築く

## 6. 十代の子どもがいる家庭

- ・子どもを情緒的・身体的に自立させる
- ・子どもの自由と責任を両立させながら、子どもへのコントロールを減らしていく
- ・両親が個別に子どもとの関係を築くと共に、夫婦として共に活動する
- ・子育て後の興味や関心を育てる
- ・信頼を築き、オープンなコミュニケーションをする

## 7. 子どもが家から出て行きつつある家庭

- ・適切な助けをもって、子どもを仕事や大学、結婚などへと手放す
- ・子どもをサポートする家庭を維持する
- ・世代を超えた新しいコミュニケーションのあり方を築く

## 8. 中年期の家庭(「空の巣」から引退まで)

- ・空の巣症候群に対処する(すべての子どもが巣立った後の寂しさへの対処)
- ・夫婦関係に再び焦点を当てる。親しい関係を築く、共通の活動や関心を発見する
- ・自分の親の世代や子どもの世代との親しい関係を維持する
- ・義理の家族(子どもの配偶者の家庭)との関係を築く
- ・更年期、中年期の危機に対処する
- ・孫育てのあり方を身につける
- ・高齢化していく自分の親の世話

## 9. 引退した家庭

- ・自分の生きがいを失わない
- ・体力の衰え、親や友人を失うストレスに対処する
- ・退職による社会的、心理的、経済的、日常の生活の変化に適応する
- ・用いられる新しい方法を発見する
- ・夫婦で共に過ごす時間と一人で過ごす時間のバランスをとる

## 10. 一方の配偶者を亡くした家庭

- ・一人で生活するか、または子どもの家庭と暮らすかを決断する
- ・配偶者のいない生活に適応する
- ・死や孤独の問題に対処する

## 第5章 結婚への準備

家庭の基本は、結婚関係にあります。ですから、結婚への準備はとても大切です。この章では、結婚への過程、聖書のガイドライン、結婚前カウンセリングについて説明します。

### 結婚への過程

子どもが両親の結婚関係を見るのが結婚準備の基本です。両親の互いへの献身、衝突の仕方、愛の表現の仕方、夫婦の役割分担などについて、子どもたちは知らないうちに学んでいます。子どもが思春期以降になると、一般的に 友情 → デート → 婚約 → 結婚 という過程を通ります。

友情の過程では、異性の多くの友人と友情を築くことを勧めます。そうすることによって、自分自身と異性について学ぶことができます。いろいろな性格の人がいることを知ることも大切です。不健全な関係は、結婚後の関係にも害を及ぼします。教会における若い人たちの集会やプログラムを通して、互いに知り合うことは大変好ましいことです。

デートの過程は、友人関係よりも深く知り合うことを目的とします。ただし、まだ結婚を前提としていないので、互いに相手を自分の関係だけに縛り合うことは避けます。将来の伴侶に求める条件を決めていきます。適切な男女の役割、尊敬、適切なマナー、友情の築き方などを学びます。決して、性的関係に至らないように互いに自制する必要もあります。これは将来の幸せな結婚のために必要な訓練です。

婚約の段階は、本当にこの人と結婚できるかどうかを確かめる過程です。互いによく知り合う前に、性的な関係を持つことは控えなければなりません。聖書もそのことを禁止しています。さらに、性的に親しくなってしまうと、客観的に相手との適性を判断することができなくなってしまうからです。また、結婚した後に配偶者に対する罪悪感や不信感が残ることがあります。本当に幸せな結婚を望むなら、将来結婚する相手に言えないようなことはしないことです。

教会でなされている結婚前カウンセリングを必ず受けましょう。その中で、互いの価値観や性格を知り合うことがあります。本当にこの人と生涯にわたっていっしょにやっていけるのか、神に導きを求めつつ、真剣に吟味する重要な時です。もし、一方

か双方がこの結婚に疑問があるなら、結婚の決断を急ぐことはやめるべきです。もっと時間をとってよく祈り、考える時が必要です。

### 結婚に関する聖書のガイドライン

1. 自分の夫や妻を求める。(偶然にまかせるのではない) 創世記 2:24、1 コリント 7:2
2. 誰と結婚するのかについて、神のみ心を求める。 1 コリント 7:24
3. クリスチャンの伴侶を求める。 1 コリント 7:39、2 コリント 6:14
4. 結婚において性的満足を求めることは正しい。 1 コリント 7:1-7
5. 結婚前の恋愛は結婚の必要条件ではない。恋愛がある場合もあれば(創世記 29:20)、ない場合もある (創世記 24:67)
6. 結婚した後は、愛を育てる必要がある。真実な愛は、努力して築くものである。エペソ 5:25、テトス 2:4
7. 結婚前に両親のアドバイスを求め、相談すべきである。しかし必ずしも親の意見に従わなければならないわけではない。創世記 24:67、エペソ 5:28、テトス 2:4

### 感情的な愛を強調しすぎてはいけない

現代の若者は、愛を強調します。愛があればそれだけでいいというような風潮があります。特に若い時は感情だけで走りがちです。感情も神様から与えられたすばらしいものですが、感情的な愛を土台にしては人間関係は続きません。嫌いになったら終わりです。

愛を理解するには、古代ギリシャ以来知られてきた3種類の愛：アガペー、フィリア、エロスに分けるとわかりやすくなります。アガペーは、自分を相手に与えること、相手への献身を意味します。これは愛の知的側面といえます。フィリアは、友情であって、情緒的側面の親密さを表します。エロスは、愛する者と一体になりたいという情熱です。多くの場合は、最初は情熱によって引かれ合うでしょう。そして友情的親密さが育ち、互いへの献身へと成長していきます。

これら3つの要素はクリスチャンの結婚にどれも大切です。けれども相手への献身が土台になって、親密さと情熱は十分に育ちます。相手への献身が強まるにつれて、信頼と安心感が増します。献身と親密さと情熱で構成される正三角形が、理想的な愛です。違いを受け入れ合うこと、存在を喜び、感謝されること、失敗を許すことを通して恵みを感じることが出来ます。「もし相手が~のようになったら愛そう」とか、相

手が自分にしてくれることに基づいて愛するのではなく、そのまま受け入れ合うことが土台になります。

お互いに依存し合いすぎると、相手が自分のニーズを満たしてくれることを要求するようになります。そして自分の成長がおろそかになりがちです。お互いにだけ目を向けていると、期待と失望が高くなりすぎます。相手を力づけるよりも、所有と要求がまさります。このような関係は大きなプレッシャーとなり、混乱と嫉妬をもたらします。

キリストを二人の関係の中心に置くことによって、神が導き、力づけ、育ててくださるという確信が与えられます。

理想的な関係は、三位一体に見られる区別と統一がある関係です。一人ひとりが神様に対して責任があり、二人としても神様と向き合います。一人がもがいていても、もう一人がしっかりした土台に立って、救いの手を差し伸べることができます。

伝道者の書4:9-12「ふたりはひとりよりもまさっている。ふたりが労苦すれば、良い報いがあるからだ。どちらかが倒れるとき、ひとりがその仲間を起こす。倒れても起こす者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。また、ふたりがいっしょに寝ると暖かいが、ひとりでは、どうして暖かくなろう。もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。」

お互いがユニークな強みを二人の関係に持ち込み、神様を二人の関係の中心に置いて「三つ撚りの糸」を作ることが、理想的な結婚です。

現代社会では、インスタントな満足を求めがちです。その場限りの関係がよくあります。聖書によれば、親密さは深く知り、知られることによって育ちます。相手への献身、受容と許し、相手を力づけることによって、安心を感じて、さらに自分を表すことができるようになります。

### 神のみこころを知るには

4つのガイドラインがあります。第1に、直接に神様の導きを求めることです。そのためには、祈り、聖書研究と黙想が大切です。第2に、両親、家族、友人などから良き知恵とアドバイスを求めましょう。二人を良く知っている信頼できる人たちから、二人の長所と短所を率直に教えてもらうことは大変重要です。第3に、結婚前カウンセリングを受けて、二人の関係のすべての面に関して率直に検討しましょう。第4に、教会の信頼できるクリスチャンたちから知恵をもらいましょう。同じキリストの体である教会に所属する人たちが、共同体的視点をもって助けてくれるでしょう。



以上のことを別の分類でいうと、個人、家族と友人、キリスト共同体の3つからバランス良くアドバイスを受けることが大切です。どれか一つだけに基づいて決断するのは、危険です。3か所からのアドバイスが一致しない場合は、よく祈り、話し合っ、この結婚が継続できる可能性を検討します。

## 結婚前カウンセリング

教会は結婚を考えているカップルに、カウンセリングをします。神の前に誓う結婚ですから、教会で結婚式をあげるには、結婚前カウンセリングを受けることを条件とすべきでしょう。

このカウンセリングは幸せな結婚生活のため、後の家庭問題を予防するためになくしてはならないものです。聖書的な結婚や家庭について理解するだけでなく、結婚の実際生活に役立つ内容も必要です。結婚を考えている男女が自分たちの関係を評価することを助け、幸せな結婚生活を築くための実際的なアドバイスを与えるものです。

### 結婚前カウンセリングの目的

1. 聖書的結婚観を知る
2. お互いを正しく理解する

結婚前のカップルは理想の世界に浸っていて、現実が見えなくなっていることがよくあります。結婚前カウンセリングは、カップルが快適に感じることを目的ではありません。互いの価値観、生き方などをよく理解できるようにします。不一致があらわにされ、議論するようになることも大切です。

3. 自分の育った家族との関係を探る

自分の育った家庭環境が、いかに自分たちの結婚に影響を及ぼすかを理解させます。両親との不健康な情緒的結びつきがあることがわかったら、その関係を断つ必要があります。「その父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである」(創世記 2:24)。カウンセラーはカップルとその両親との未解決の問題を取り扱って、解決の手助けをします。赦しやいやしが必要な場合もあるでしょう。

4. 自分のニーズや期待を理解する

特に未熟で欠けの多い家庭で育った人の場合は、結婚の動機が不健康になることがあります。たとえば自分の性格の欠けを補うためや、家庭から逃れるため、あるいは代理の親を求めて結婚を希望することがあります。そういった要求が満たされている間は、幸せに感じますが、満たされなくなるとうまくいかなくなります。ですから、

結婚の本当の動機を理解することは大切なことです。

5. コミュニケーションの仕方、衝突（コンフリクト）に対処する方法を学ぶ
6. 夫と妻の役割を理解し、自分たちはどうするかを話し合う
7. 経済管理の方法について理解し、自分たちはどうするかを話し合う
8. 結婚生活における性的関係について学ぶ
9. 不適切な結婚を防ぐ

アメリカではおよそ半分の婚約が解消しています。場合によっては、カップルだけでは解決できない問題をカウンセラーが間に入って解決を助けます。こうして離婚の芽をあらかじめ摘み取ります。

10. 結婚式の詳細について話し合う
11. カウンセラーがカップルとよい関係を築く。結婚後に問題が生じた時に相談できる関係を築いておきます。

#### 結婚前カウンセリングのガイドライン

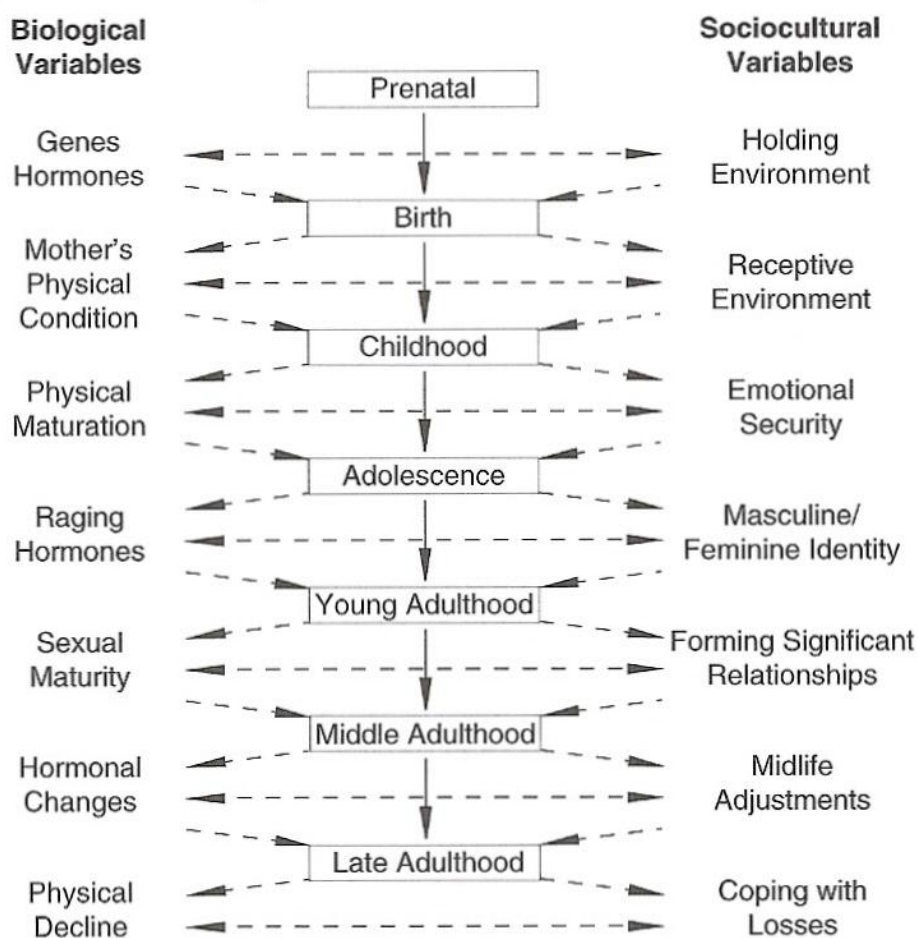
1. ただ情報を与えるだけの講義は避けます。カップルが互いをよく知ることができ、自分たち自身について話せるようにします。参考文献で紹介しているように、各自が書き込んできて、互いに分かち合えるテキストを用いるとよいでしょう。そして期待の食い違いや歩み寄りが必要と思われる点を、重点的に話し合います。
2. よい結婚生活のためのスキルを身につけることも大切です。コミュニケーション、問題解決、適応性、共感性、愛を与え受け取る能力、情緒的安定性、不一致など、どのように理解し、どのように対処するか、実際的なスキルを身につけることを目指します。
3. カウンセリングの最後に、カップルが結婚するかどうかを決断しなければなりません。カウンセラーの観察と洞察、カップルの自己洞察、互いの感じ方、スキル、聖書の真理などに基づいて、この結婚が神の望まれているものであるかどうかを判断します。
4. 結婚後にカウンセリングの時を設けると効果的です。結婚前は、理想が強くて、結婚前カウンセリングで取り扱った内容を現実的に考えることは容易ではありません。結婚した最初の年に夫婦の関係のあり方はだいたい決まります。ですから、結婚後、最初の1年間に助けを与えることは重要です。できれば、結婚前のカウンセリングのスケジュールに結婚後6ヶ月と結婚後1年のカウンセリングセッションも組み込んでおくとういでしょう。結婚後のカウンセリングでは、主にカップルが実際に抱えている問題や疑問について話し合います。

## 人間の性

人間の性は、生物的要素と社会文化的要素の相互作用を通して発達していきます。その人が育つ文化を社会化によって反映します。私たちは自分の置かれた環境の中で、特定の対象に性的に反応することを教えられていきます。私たちの性は、生物学的、心理的、経験的な要素も含んでいます。

たとえば、メディアなどを通じた社会文化的な刺激に反応して、生物学的な脳が性的行動をするように体を導きます。あるいは、思春期における男性・女性ホルモンの量（生物的要因）と期待される男らしさ・女らしさ（社会文化的要因）の両者の相互作用によって、さまざまな男性と女性の行動が表れます。

次の図は、性的発達の相互作用モデルを表しています。矢印は影響する方向を示しています。



(The Family p.217)

各人の性は、その人の全人格に織りなされていて、その人がどのような価値を求めるかに影響します。各人の性は、他の人との深い個人的関係を表現する手段であり求めです。各人の性は、異性との献身的愛の結びつきに向かわせます。

## 聖書からみる人間の性

1. 人間の性は、神がデザインして創造されたものです。創世記 1:27-28 には次のようにあります。「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。『生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。』」

ここから教えられるのは、人間の性は、二通りの方法で「神のかたち」を反映していることです。一つは、男と女とが異なる存在として「神のかたち」を表しています。もう一つは男と女が結びついて人間の性が完成することによって、「神のかたち」を表します。

2. 人間の性は神から与えられたよい賜物です。人間の性は、神の創造によるもので、神がデザインされ、神の目的があります。神にとって人間の性はよいものであり、私たちは自己の性を感謝をもって受け入れるべきことを教えられます。

3. 人間の性は、より深いレベルの「知り・知られること」へ私たちを導きます。これは、自分自身・他の人・神との関係において見られます。私たちの体は、他の人とのつながりを発見できるように、神経系、ホルモン、感覚、情緒が備えられています。神は人間を社会的につながる者として創られています。

4. 人間は性的喜びを感じる能力が与えられています。この能力は、信頼できる家庭環境で情緒的に満たされることによって、もっとも発達します。

5. 性と霊性とは複雑に結びついています。両者を分離することはできません。それゆえに、二人が一体となることには深い霊的意味が含まれているのです。

6. 人間の性は罪によってゆがめられ、贖いが必要です。神によって全き者として創造されたアダムとエバは罪を犯し、全人類はこの墮落した性質を受け継いでいます。墮落は社会文化的な生活にも生物的生活にも影響を与えてきました。創世記 3:16-19 にあるように、人間は身体の死、出産や労働の苦しみを経験せざるをえなくなりました。人間関係も破壊され、人間の性がゆがめられました。

7. キリストが私たちのゆがめられた性を真正な性へと回復し、新しくしてくださいます。

## マスターベーション

性に対する健全な態度は、家庭から始まります。子どもたちは神がくださった自分の体と感覚とを感謝して受けとめられることが大切です。聖書はマスターベーションについて語っていません。聖書を用いて論じている否定派も容認派も、推測に基づいています。クリスチャンには3つの立場があります。否定派と容認派、そしてその中間的立場で、場合によっては不健康で不適切にもなりうると思います。

この中間的立場がもっとも適切と考えられます。神は人を性的存在として創造されました。マスターベーションは独身者にとって、自分の性を感じ、性的喜びと解放を経験できる健康的な方法となりえます。多くのクリスチャンは、マスターベーションについて抱いている罪悪感から解放される必要があります。

しかし、マスターベーションはいつも心理的、道徳的に健全であるとは限りません。強迫的なマスターベーションは、中毒や自滅的パターンになりえます。結婚している人にとって、マスターベーションによって、相手の性的充足が奪われたり、夫婦間の問題がはぐらかされたりするようなら、マイナスの意味しかありません。しかし、夫婦が性交の頻度についての希望が異なる場合、マスターベーションが用いられても問題にはなりません。夫婦は性的問題にもしっかり向き合うことが大切で、逃げてはいけません。

マスターベーションに関する別の問題は、情欲との結びつきです。イエスはマタイ5:27-28で次のように教えています。『姦淫してはならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。』

特定の人に情欲をいだくことは姦淫につながり、姦淫は罪です。情欲には、その思いを何とかなし遂げたいという不適切な思いがあります。それに対して、空想することは、その思いを達成したいと試みることはありません。結婚している人の場合は、配偶者を想像してマスターベーションをする場合は、相手に誠実です。自分の配偶者以外の人を想像するなら、相手に対して不誠実です。

私たちは自分たちの空想に注意を払って、神様の意図された目的内にとどまるようにしなければなりません。たとえば、力づくで相手を自分のものにしようとするような空想は、隣人を愛せよという神の命令に反します。同様に、アダルト映像を見ながらマスターベーションする人も問題があります。そこに登場している人は性的に利用されていて、非人間化されているので、神が人間に意図された性とはかけ離れているからです。女性へのゆがめられた性的見方によって、レイプや暴力的な犯罪が増加しています。聖書は他の人をおとしめるのではなく、価値ある者として大切にすることを

教えています。クリスチャンは自分の空想の適切さを見極め、それが自分の生活全体に与える影響を考える必要があります。小説や映画の内容が、自分の結婚関係を弱めるものでないか、注意する必要があります。独身者は、自分の空想が神が意図された結婚相手との希望につながるものなのか、それとも普通にはいないような人への理想を高めるだけのものなのかを注意すべきです。私たちは自分の空想が神の意図と合わないものであるとわかったなら、私たちへの神の計画と合ったものに変えることが大切です。

かつて教会は、性的罪が他の罪よりもはるかにひどいものであるかのように扱ってきました。私たちは神のかたちに創造され、神の子であり、キリストの血によって義とされた者であることを思い返すことが大切です。私たちのすべての罪は悔い改めた時に赦されます。私たちが過去にどんな性的生活をしていても、神に赦しを求め、キリストにある性的清さを求めることができます。同時に、私たちは自分の行動に責任があり、性を含めた私たちの生活のすべての面で統一のとれた人格になれるように神の助けを切に求めましょう。

## 性的好み

ほとんどの人は異性を好みます。しかし、およそ1～2パーセントの人は同性を好みます。レビ記 20:13、ローマ 1:26-27、1コリント 6:9-11 などによると、同性愛は罪とされています。けれども、今日ではほとんどのクリスチャンは、同性愛的傾向は非難されるものではなく、同性愛の行為が非難されると考えています。

同性愛容認派は、性的傾向は人生の初期に決定されているので、自分で選択できることではないと考えます。同性愛になる原因は、いろいろ考えられていますが、いまだに確定していません。牧会者たちは、性的傾向を変えることができるという希望を持っています。本人が性的傾向を変えたいと希望し、それができると信じるのが大切です。そしてグループのサポート、祈り、内的いやし、認知行動療法などが用いられます。性的傾向を変えるのは、子ども時代の欠けを同性愛によって満たせるという誤った仮定を認めていくプロセスであると、多くの人が証言しています。同性の親との冷たい関係や異性の親が支配的であったことも、同性愛につながると考えられています。

神は人間を男性と女性に創造し、両性が補い合う、親密さと出産の目的で一つになることを意図されました。人間が墮落した後も、罪ある私たちは神の意図されている異性との生涯にわたる一夫一婦制を理想として目指していきます。性的アイデンティ

ティに悩んでいる人が、クリスチャン共同体よりも同性愛の仲間の中に愛をよけいに感じるなら、それは悲劇です。クリスチャン共同体は、真理と恵みの両方が必要です。

## 第6章 豊かな結婚生活（マリッジ・エンリッチメント）

私たちの文化では、結婚に関していくつもの間違っただ「神話」が信じられています。そのうちの一つは、自然にしていれば結婚はうまくいくというものです。すべての調査結果は、そうでないことを示しています。もう一つの間違った考えは、結婚はとてもプライベートなものなので、内部で起こっていることを誰にも話してはいけないというものです。この考えによって外部からの助けを得ることができなくなっています。

教会は、結婚に関する正しい聖書からの教えと、積極的なプログラムによって、これらの間違っただ考え方を打ち破ることが可能です。この章では、豊かな結婚生活を築くために、基本的な真理とスキルを授けるために役立つ内容を説明します。

結婚によって二人は各々が育った異なった家庭の文化を、新しい一つの家庭に持ち込みます。その過程で、自分の生まれ育った家庭の伝統で残すものと捨てるものを選んだり、拡大したり、新しい伝統を作ったりします。

### よい結婚に影響を与える要素

今までになされてきた研究によると、結婚の質を決める3つの要素があることがわかっています。それは、背景と状況要素、個人の特性と行動、夫婦の相互関係です。

背景と状況要素としては、結婚した年齢、学歴と収入、職業安定性があげられています。人種、社会経済的地位、宗教、知性、年齢が同じくらいであることが、結婚の質を高めることがわかっています。個人の特性としては、身体的・情緒的健康、慣例尊重、自尊感情のレベルが結婚の質に影響します。さらに、似たような価値、考え方、信念を持っていることが、よい結婚につながります。相互関係としては、よいコミュニケーションと対立解決能力が結婚の質を向上します。結婚前に同棲経験がないこと、性的経験がないこともよい結婚につながるがわかっています。

育った家庭に関する要素としては、両親がよい結婚関係を持っていたこと、親が結婚したカップルを支援し、圧力をかけないことが、よい結婚につながります。



## 育った家庭の影響

### 役割モデルとしての両親

両親は強力な役割モデルです。子どもたちは両親がどのようにコミュニケーションをとっているのか、どのように愛情や怒りを表現するのかを見ています。親が自分の結婚相手にしたことすべてが、自分の子どもが結婚した時に結婚相手にする行動や態度に影響を与えます。特に、妻が育った家庭でよい経験をしていると、結婚の適応がうまくいくことが調査からわかっています。多くの人がいかに両親の行動を単に真似していることが多いかに気づいていません。私たちは両親から学んだ誤った態度と行動に気づき、それを改める努力をしなければなりません。

### 親との分離

一人の人のアイデンティティは、育った家庭で形成されます。そこで、考え方、信念、価値などを獲得して、自己概念が形成されます。思春期を迎えると、親からの分離が本格的に始まります。そして家族に結びついていると同時に、社会的・心理的に分離していきます。親の価値観と信念を無批判に受け入れていた状態から、自分なりのものを形成していくことは、とても重要で大変なエネルギーが必要です。私たちは親から明確に分離できるまでは、結婚の準備ができてはいけません。親から自立して、自分のアイデンティティを確立している人が、新しい家庭を築く時お互いに相手のために尽くし、相手を受け入れる余地をつくることのできるのです。

親と密接に依存しすぎている人は、健全な分離ができません。その逆に、情緒的に親と切断してしまっている人は、健全なつながりを持つことができません。

結婚した夫婦が親から分離することは、創世記 2 章 24 節に書かれています。「それゆえ男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである。」親と密接につながりすぎている人は、新しい家庭を築くことがむずかしくなります。けれども同様に、親と充分なつながりがなかったら、もともとつながりがないのですから、父母から離れることが不可能です。親とのつながりを経験していない人は、結婚しても親しい情緒的なつながりをつくることができません。どちらの場合も、有意義な「一体」をつくるのが困難です。

## マリッジエンリッチメントのガイドライン

1. さまざまな形態が可能です。教会学校のクラス、1日セミナー、週末のカンファレ

ンス、リトリート、ファミリーキャンプ、定期的に集まる集会など。

2. スモールグループ形式を用います。他の夫婦が語ることを聞くことによって、自分たちも心を開くことができ、励まされます。問題をかかえているのは自分たちだけではないことがわかり、他の夫婦から問題を解決するアドバイスを受けることができます。また、自分たちも他の夫婦を助けることができます。メンバーはグループでの話し合いに参加できればできるほど、夫婦間のコミュニケーションもよくなります。

3. 発見学習・体験学習を用います。いろいろなテーマについて学ぶだけでなく、実際に経験できるようにします。夫婦がお互いについて新しい発見ができるようにします。また、新しい経験をできるように工夫します。

4. 夫婦のリーダーを立てるとよいでしょう。リーダーたちがよい模範を示すことは、大きな教育効果があります。リードする夫婦が自分たちの結婚の問題やうまくいったことなどを分かち合うと、全体の分かち合いもしやすくなります。さまざまな課題(アクティビティ)をする場合、リーダーの夫婦が実際のやり方を示すとよいでしょう。

5. リーダーは、講師ではなくファシリテーターであるべきです。参加者を励まして、考えさせ、聖書からの発見を促し、メンバーが互いに交流することを促進します。

6. 参加者はグループの中で安心を感じられることが大切です。そのためにも、グループの人数が大切です。リードする夫婦を含めて4～5組の夫婦が適切です。3組以下では個人にプレッシャーがかかりすぎることもあり、6組以上ではよい関係が築けません。

安心を感じられるようにするには、受け入れられることが大切です。グループリーダーは、グループ全員が正直に発言できるようにしむけます。自分の失敗や過ちを言い合え、神様がどのように問題解決を助けてくださったかを自由に分かち合えるように励まします。

特に、夫たちは参加をためらう傾向があります。自分の結婚の弱さを出すことに恐れを感じていたり、助けの必要を感じていないことがあります。

最初の集まりでは、多くの人が不安や心理的抵抗を感じています。ですから、リーダーは、参加者を心から歓迎します。また、発言は強制されないことを伝えます。

7. 継続するプログラムやフォローアップを計画します。結婚生活は長く続くものですから、一回のプログラムで終わりにしてはなりません。学んだことをどのように活かしているか、夫婦関係がどのように変わったかなどについて、定期的が集まって分かち合いの時を持ちましょう。複数回のプログラムでは、次回までにやってくる課題があるほうが、効果的です。

## テーマ

豊かな結婚生活を築くために、取り扱うとよいテーマはたくさんあります。そのいくつかをここで紹介します。

### コミットメント（互いへの献身）

結婚の土台になるコミットメントについて教えることは必須です。ロマンスは二人を結婚へ導いてくれるかもしれませんが、二人をつなぎとめるものはコミットメントです。コミットメントは安定した結婚関係の基礎を作ります。

まず、結婚は神の前における個人間の契約であることを学びます。次に、この真理から教えられる適用について考えます。たとえば、結婚は感情の土台の上に成り立つものではありません。恋愛関係にある人たちは、すべてをバラ色のメガネで見て、相手の欠けや違いを見過ごしがちです。恋愛期間中は夢を見ているような感じで、結婚式を挙げて初めて目が覚めて現実を見始めるようなところがあります。私たちは空想した配偶者ではなく、ありのままを受け入れることを学ぶ必要があるのです。

### 性役割

歴史上のほとんどの社会で、男性であること・女性であることは当然のことで、自然に性役割を身につけました。ところが、今日の社会では、男性に期待されること・女性に期待されることが曖昧になってきました。社会科学によって、伝統的な性役割は自然な発達だけでなく、文化的条件づけの影響が大きいことがわかってきました。現代では、性差は遺伝と環境の相互作用と考えられています。遺伝的に持って生まれた性差があります。文化が持つ「男らしさ」「女らしさ」の期待を社会化によって身につけることによって、遺伝的性差がさらに分化していきます。

また、テクノロジーが発達する以前には、性差によって仕事の役割も決定されました。体力が必要な仕事を男性がして、出産と子育ては女性の仕事とされました。知識労働の時代になって、仕事の性差は少なくなりました。避妊技術の発達によって、女性は多数の子どもを出産することから解放されました。育児をしてくれる社会機関も整備されるようになり、女性にとって子育ての比重が軽くなってきました。

このように伝統的性役割が曖昧になってきたため、結婚した夫と妻が自分たちの役割について混乱したり、息子や娘をどのように育てたらよいのか確信がなくなっています。

結婚している女性の半数以上が家庭の外で働くようになったので、何が十分な子育てなのかという疑問があります。家庭は子どもの人格と性的アイデンティティが形成

される場です。幼い男の子がどうやって男性になっていくのかを学ぶのは、父親やお兄さんの行動を観察するだけでなく、お母さんや姉妹から何を期待されるかにもよっているのです。

創世記 1:27 には、「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」とあります。神は人間を最初から男性と女性に創られました。しかし、聖書は一般的なクリスチャンの性質については多く書かれています（たとえば、ガラテヤ 5:22-23 など）、男女の区別についてはあまり書かれていません。書かれていたとしても書かれた当時の文化に根差したものであることが多いのです。あるいは、主イエスの性質をみると、現代でいう男らしさも女らしさも両方持っておられました。

子どもにとっては、家庭に父親と母親がいて両方の姿を見ることができることが、理想的な環境です。育児と家事を分かち合っている夫婦は満足度が高く、子どもにも相互信頼、協力、平等を教えることができます。夫婦が共に育児に関わるためには、母親が父親を育児に積極的に参加させ、父親は積極的に育児を学ぶようにする必要があります。育児に積極的に参加する父親は、社会情緒的な人間関係が発達し、感情表現ができるようになります。

夫と妻の役割については、最初に聖書から学びます。創世記 2:24 で、神は夫と妻は一つになると言われました。このことは、どちらかの側に一つになるという競争ではなく、補い合って完成することを意味しています。結婚における男性と女性の異なった賜物は、ちょうど教会内での霊の賜物と同じようなものです。違いをマイナスにとらえるのではなく、違いを用いてどうやって結婚関係を豊かにすることができるかを考えます。

キリストが教会を愛したように夫が妻を愛することと、主に従うように妻が夫に従うことのバランスを失わないようにすることが大切です（エペソ 5:22-33）。一方だけを強調すると、偏った夫婦関係になります。夫は神からリーダーシップを与えられています。しかし、このリーダーシップは特権ではなくて責任です。無私の愛から行使されるべきです。エペソ 5:25、ピリピ 2:5-8 では、互いに仕え合うことの重要性が教えられています。以上のことからわかるのは、夫と妻は各個人の賜物と必要に応じて、家庭内での責任を分担したらよいということです。

聖書から学んだ後、結婚生活で夫と妻の役割に関して、実際に直面している問題を書き出してもらいます。そして、聖書の互いに仕え合う精神にしたがって、それぞれの夫婦がリストにあげられていることを一つ一つ話し合っ解決するように助けます。

あるいは、日常生活でおこなわれる主なことを書き出しておいて、各々について夫

と妻がどのような役割を果たすかを話し合います。たとえば、収入を得ること、買い物、育児、食事の準備、洗濯、掃除、お金の管理などをどのように分担するかを話し合います。この話し合いにおいては、必要な時には、リーダーがアドバイスを与えることが大切です。

## コミュニケーション

結婚当初は、誰もが期待に胸ふくらませていることでしょう。どんなことでもお互いに分かち合おうと考えます。互いの夢、希望、考え、感情……。しかし、何ヶ月か、何年か経つうちに、わだち（決まりきったやり方）にはまり込んでしまうのです。すべてが、予測できるパターンにはまってしまっています。あまりに忙しくて、互いのために時間を割くことができなかつたり、意見の食い違いにうまく対処できず、自分を守る壁を作ります。そういったことが、パターン化していくのです。多くの夫婦が、気づかないうちに、親しさを失い、孤独や退屈を感じるようになっていきます。

結婚問題のアンケートでは、夫婦間のコミュニケーション不足が必ず上位にあげられます。この問題は機械的な方法で改善できることではありません。誠実で愛があり、直接的なコミュニケーションが必要とされています。

コミュニケーション能力を高めるためには3つのステップが考えられます。

1. 互いに理解し合うことを困難にさせる問題を扱います。たとえば、聞き漏らすこと、異なった生育環境が理解の混乱をもたらすこと、忙しすぎることで、怒って理解しなくなることで、男女の違い、聞かずに話すこと、理解する価値がないと思ってしまうプライド、もう知っていると考えてしまうこと、自分が傷つくことを恐れること、何かをしなければならなくなるので本当に理解することを恐れること、無関心、短気、自己中心など。
2. 自分が持っている「聞かない習慣」に気づかせます。多くの人が、聞かずに応答するやり方を身につけています。たとえば、絶えず話題を変えること、相手の話を聞きながら何と答えるかを考えていること、上の空、いつも冗談を言う、最後まで聞かずに意見を言う、すぐに判断を下す、物をいじくる、話している人の方を見ない、など。自分の「聞かない」習慣に気づいたら、その習慣を打ち破るように努力しなくてははいけません。
3. 夫婦によい聞き方を教えます。「だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい」（ヤコブ 1:19）。聞くことは自然に学べることはありません。これは難しい技術で、努力して発達させる必要があります。理解するためには、相手が自分を十分に表すまで忍耐強く聞くことが求められます。よい聞き手は、耳だ

けでなく、口と体でも聞きます。よい聞き手は、話し手の方を向き、話し手を見て、相手の話に注意を集中していることを示します。そして、「はい」、「うん」、「なるほど」、「そうですか」などといった適切な相づちを打ちます。時には、相手が話した内容を自分の言葉で言い換えます。さらに、より深く理解するための質問をします。話し手が望めば、自分の意見を述べます。

## 感情の分かち合い

心の内にある感情を分かち合うことは、よいコミュニケーションにとっても、不一致の解消においても、深い親密さを築くためにもなくてはならないことです。自分を明らかに示すためには、傷つくことを恐れないこと、オープンにすること、透明にすることが大切です。

ただし、正直であることは、すべての考えや感情、秘密を表さなければならないことではありません。「必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい」(エペソ 4:29)。このパウロの言葉が夫婦間の分かち合いでも、ガイドラインになります。愛をもって感情を正直に分かち合います。

ストレート・トークというトレーニングでは、**When** (～の時)、**I** (私)、**Because** (なぜなら) を用いて話します。例えば、「私が話している時、あなたが別の方向を向いているのは私の気分を害します。なぜならあなたが聞いていないように見えるからです。」このように話すことによって、どういう場合に、自分の感情がどのようになるのか、その理由は何なのかを相手に正直に伝えられるように訓練します。

感情を分かち合う別の方法には、次のようなものがあります。夫と妻は一つの質問について、各自で答えを書きます。たとえば、このような質問です。

「もっとも安心を感じたのはいつですか」

「あなたは拒絶された時、どのように感じますか」

「あなたは失敗した時、どう反応しますか」

「どんな感情が、一番話しにくいですか」

次の10分間、互いの答えを読んで話し合います。こうすることによって、お互いの深い感情を理解する努力をします。

また別の方法としては、以下の文章を完成させることによって、感情を分かち合うこともできます。

「私はたった今、～のように感じています。」

「私は新しい人に合うと、～のように感じます。」

「私が不安を感じる状況は、～です。」

「私が～の時に、伴侶の助けをもっとも必要とします。」

「私は～の時に、とても快適です。」

「私は一人の時に、～のように感じます。」

「私が話すことをもっとも恐れていることは～です。」

「私は普通、フラストレーションを～によって解消します。」

「私は～の時に、拒絶されたように感じます。」

### うっ積した感情への対処

長期間に渡って解決されない問題がある場合、怒りやねたみ、痛み、失望などが蓄積されることがあります。多くの人が良いクリスチャンであろうとして、自分の内にある感情を否定するのです。感情が抑圧され、うっ積していきます。

それらの感情を解決する第一歩は、まずそういった感情を認めることです。感情を認めたら、どういう感情なのか、その原因は何なのかを探ります。次に、その感情を言葉に出して相手に伝えます。そうすれば、この問題の解決について、二人で取り組むことができます。

### 育った背景を分かち合う

お互いを理解し、受け入れ合うためには、互いが育った背景を知ることが大切です。カップルはコミュニケーションゲームに参加します。このゲームの目的は、過去のさまざまな経験や感情を分かち合うことです。たとえば、小学6年生の時の最大の出来事、10代の時の楽しかった経験、自分が男性である・女性であると感じた時の経験などについて分かち合います。

### 違いを分かち合う

互いに違いを意識的に知ることは、お互いをよく知り、よりよい関係のあり方を考えることができます。簡単な方法としては、感じている互いの違いを書き出してもらって、話し合います。より専門的な方法としては、気質を調べる心理テストを用いる場合もあります。

### 希望や望みを分かち合う

配偶者との関係で、何を望むかを伝えることはとても大切なことです。しかし、拒否されることを恐れて、望みを言いにくいことがよくあります。相手への希望や自分の必要を伝えないと、それを言葉以外の方法で伝えようとするようになります。

そういった表現は、しばしば見落されたり、誤解されたりします。こうして、二人の気持ちは離れていってしまうのです。

もっとも簡単な方法は、希望リストを用います。配偶者にしてほしいこと、してほしくないことを書き出します。たとえば、「私が食事を終えるまで、テーブルにいてほしい」、「もっと自分のことは自分でしてほしい」など。各々がリストを書き出した後、それぞれの項目について二人で話し合います。

別の方法としては、非言語的コミュニケーションの仕方を発見するものがあります。配偶者によく見られる非言語的コミュニケーションの表現を5つあげます。たとえば、話しの途中で席を立つ、セキばらいをする、視線をそらすなど。書き出した後、お互いに分かち合います。そして、その表現を通して表されているニーズや希望を話し合います。

### 愛情表現を分かち合う

夫婦は育った背景と性格が異なるので、愛情表現も異なります。そのため、相手の愛情の表現を見落とすことがあります。それが積み重なると、すれ違いが生じてきます。たとえば、愛を伝えるために夫はいろんなプレゼントを妻に贈りますが、妻は言葉で言われないと愛を感じないということもありえます。

カップルは2つのリストを作ります。1番目のリストは、「私が相手に愛情を表現する5つの方法」です。重要なものから順に書き出します。2番目のリストは、「相手が私にしている愛情表現だと思う5つの方法」です。このリストも重要と思われる順か、頻度順に書き出します。

その後、自分の1番目のリストと相手の2番目のリストを比較して、話し合います。次に、自分の2番目のリストと相手の1番目のリストを比較して、話し合います。こうすることによって、互いの愛情表現の溝が埋められます。

### 性(別)に関する考えを分かち合う

結婚の基礎の一つは、性的アイデンティティを確立することです。自分が男性・女性であることを受け入れられ、主張することによって育ちます。夫は自分が男性であることを主張し、妻が女性であることを受け入れます。妻も自分が女性であることを主張しながら、夫が男性であることを受け入れます。

もし夫が弱さを見せないことが男らしさであると思っているなら、妻に自分の弱さを見せないでしょう。しかし、もし妻が男らしさは自分を素直に表現することであると考えているなら、二人の間に食い違いが生じます。



互いに2つのリストを作ります。一つは、「本当の男らしさ」、もう一つは「本当の女らしさ」です。そして、二人が書いたリストを比較します。違いに驚きながら、よき話し合いが持てるでしょう。

## 衝突への対処（コンフリクト・マネジメント）

結婚は異なった二人が共に生活をするのですから、衝突が生じて当然です。二人が近づけば近づくほど、衝突の可能性は高まります。決して衝突は悪いことではありません。衝突は、お互いを理解し合うために、必ず通過する過程です。

しかし、衝突への対処の仕方を知らないために、さまざまな良くない結果が生じています。衝突を避けようとして、それぞれが本当の気持ちを打ち明けずにいる場合があります。これでは、根本的な理解も解決もありません。また、衝突が起こると、多くのカップルは、批判し合ったり、皮肉を言い合うようになります。

そうならないためには、率直に向き合うことが大切です。イエスは、次のように言われました。「もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです」（マタイ 18:15）。二人の間にある障害物は、繊細かつオープンに話し合わなければなりません。話し合いが始まると、解決のためにはいくつもの選択肢があることがわかってきます。互いに歩み寄ったり、受け入れ合うようになります。

具体的な衝突への対処方法には、次のようなものがあります。

1. 衝突した時の自分の過去のパターンを認識します。この作業によって、自分たちが陥りやすいパターンを客観的に知ります。たとえば、以下のような選択肢の中から選んでもらいます。

- ・降伏する
- ・勝つために戦う
- ・小言を言う
- ・そのことについて話し合いを避ける
- ・黙って怒る
- ・妥協点を探す
- ・皮肉やあてこすりを言う

2. 夫婦が自分たちなりの衝突への対処方法を考えます。参考のために、「戦いのガイドライン」を配布します。それには、以下のようなことを書きます。このガイドラインを参考にして、自分たちのガイドラインを二人で話し合って作ります。

- ・問題点を放置して、1日以上わだかまりが続くようにしない。「怒っても、罪を犯し

てはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけません」(エペソ 4:26)

- ・ 1度に1つの問題点だけに絞る。他の問題を持ち込んではならない。
- ・ 過去のことを持ち出さない。現在のことだけを扱う。
- ・ 適切な時を選ぶ。感情的になっている時、疲れている時、空腹時を避ける。
- ・ 「あなたは～」という文章ではなく、「私は～」という文書を使う。
- ・ 言葉を注意深く選ぶ。
- ・ 要点をしぼって、明確に語る。
- ・ 相手を非難することなしに率直に自分の感情を伝える。
- ・ 否定的な表現、罵倒や侮辱を避ける。
- ・ 自分の主張を押し通そうとしない。
- ・ 一方的に話さない。自分が主張したら、相手の意見を必ず聞く。
- ・ 事実を誇張したり、ゆがめたりしない。「いつも～」、「絶対～」という表現を避ける。
- ・ 陰口を言わない。
- ・ 家出をしない。
- ・ 暴力をふるわない。
- ・ 勝つことを目的にしない。
- ・ 自分の非を認める。
- ・ 譲り合い、一致点を探る。
- ・ 第3者を不当に利用しない。配偶者には黙っておいて、第3者に秘密を打ち明けてはならない。
- ・ 子どもを巻き込まない。子どもは親の姿を見て学習しています。仲直りするところまで見せるようにしましょう。

### 3. 実践してみる。

各夫婦に、自分たちがよく衝突するテーマを一つ選んでもらいます。このテーマについて、先に作ったガイドラインを用いて、話し合ってもらいます。この時、リーダーがついていて、ガイドラインを逸脱した場合に注意します。このような訓練を繰り返すことによって、二人だけで衝突に対処できるようにします。

## 結婚における性

性は結婚関係の一つの面にすぎません。健全な性は、夫婦の親しさにうまく統合されます。結婚における性にはいくつかの原則があります。

1. 相互性が大切です。1コリント 7:4-5 にこの考えが表されています。「妻は自分のからだに関する権利を持ってはおらず、それは夫のものです。同様に夫も自分のか

らだについての権利を持つてはならず、それは妻のもので。互いの権利を奪い取ってはいけません。ただし、祈りに専心するために、合意の上でしばらく離れていて、また再びいっしょになるというのならかまいません。あなたがたが自制力を欠くとき、サタンの誘惑にかからないためです。」

聖書は完全な相互性を勧めています。この教えは、エペソ 5:21 とも共通しています。「キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。」真実な結婚の性は、夫と妻が性的交わりについて一致した時にだけ達成できます。夫に主導権があり、妻はそれに従うというのはまちがいです。夫婦は自分たちの性的希望について、正直な会話と相手への思いやりが必要です。

2. 夫と妻は自分たちの性的感情と希望について、言葉によるコミュニケーションが必要です。相手が性について何を望んでいるか、どうしたら相手の必要と望みを一番満たすことができるかを知ることが大切です。夫婦は自分たちの性的関係について、互いがどのように感じているか、何を変える必要があるのかについて話し合う必要があります。これはほとんどの夫婦にとってむずかしいことです。けれども、それをしないと、満足できないことがいつまでも話し合われず、さらに悪い結果につながります。オープンな話し合いが、喜びを高めることにもなります。

3. 正直でなければなりません。本当の気持ちや希望を隠さず、完全にオープンにすることが大切です。自分の魅力に自信のない人は、ふりをする傾向があります。あるいは、夫婦間の主導権をとろうとする人が、性的な興味を示すことと示さないことを交互に繰り返すことがあります。あるいは、性的に誘っておいて相手はその気になったら拒否するというような性的からかいも、夫婦関係によくない影響があります。

4. 楽しさの要素が大切です。自分自身と自分の体への健全な視点と相手との快い感覚が性的関係における生き生きとした自由を感じます。楽しさがあると、夫婦の性的関係を大げさに考えすぎなくてすみます。楽しくリラックスできます。

5. マニュアルに従うのははいけません。これは正しい方法を使うことの重要性を強調する技術社会において、特にみられる問題です。この態度は、性的関係を技巧の練習に縮小してしまいます。マニュアルに従うのでは、自然で自発的な関係が築けません。

6. 性交以外で快感が強いほど、性的満足が強くなります。お互いに優しく触れ合うことに時間をかけるなら、より満足が高まります。

7. 夫婦の互いへの献身が確かであるほど、よい性的関係が持てます。逆に信頼できなくなると、よい性的関係は持てません。無条件の互いへの献身に基づいて、性的関係はオープンで安心なものになります。

8. 責めや恥ではなく「恵み」と「赦し」が、いやしと新しくされる関係に導きます。互いの性的ニーズと望みを受け入れるためには、恵みと赦しが必要です。

9. 夫婦は互いに非現実的な性的要求をすべきではなく、互いに力づけることが大切です。性的関係において互いにより深く理解し、価値を認め、いつくしみます。そうすることでより深い親密さが生じます。互いの視点と限界を受け入れること、知り・知られるという願い、喜んで脆さを出すことなどによって、情緒的な親密さ、一体であることに導かれます。性的満足は単に身体的な快感だけではなく、情緒的、精神的、霊的な一体性を感じることから生じます。

1 コリント 7:1-5 は、夫婦間の性的関係は、よいもので自然で望ましいため、抑えるべきではないと教えています。

結婚における性的関係は、単なる身体的関係だけではないことを聖書は教えています。性は単に快感や情熱だけではなく、感情を伝える媒介です。魂の交流でもあります。聖書が教えている性の目的は、少なくとも以下の5つが考えられます。

#### 1. 出産

神は人間を中性ではなく、男と女とに創造されました。性をよいものとして与えてくださり、性交によって子孫が誕生するようにされました。

#### 2. 親密さを得る

性交によって一体になることは、強力なコミュニケーションの方法です。言葉を使わずに次のようなことを伝えます。「あなたを愛しています。あなたを必要としています。あなたに私のすべてを明らかにすることを喜んでいます。あなたが私にすべてを明らかにしてくれていることを喜んでいます。」性生活が改善されると、夫婦の親しさが増します。

#### 3. アイデンティティを養う

私たちが男性であるとか女性であることは、個人のアイデンティティにとって重要なことです。結婚におけるよい性生活は、個人のアイデンティティを強めます。結婚した夫婦は、性に関して、互いの体や好みの違いを無条件に受け入れあうことが大切です。批判したり、冗談に使ったりすることは、相手を傷つけます。

#### 4. 喜びを与える

喜びを与えることも性の目的の一つです。環境を変えて退屈さを避けることも大切です。

#### 5. 不倫を防ぐ

よい性生活によって、性的純潔を維持できます。性は、支配の手段でもなく報酬で

もありません。互いに相手の必要を快く受け入れ合うことが大切です。欲求の違いをうまく調整する必要があります。

## 家計

教会は、家計セミナーや家計カウンセリングをおこなうことができます。実際の支出を分析し、問題を発見します。問題には、予算を立てないこと、予算を守らないこと、欲望に負けること、夫婦の一致がないことなどがあります。夫婦の支出パターンの背後にある心理的問題を取り扱う必要がある場合もあります。心の中に問題があると、経済的な問題が生じてきます。たとえば、愛情不足や劣等感が買い物依存症につながる場合があります。

金銭管理の方法を教えます。支出が必要なものの決め方、予算の立て方、予算を守る方法などです。シンプルな方法が継続しやすくてよいでしょう。最初に支出項目を決め、次にそれぞれの項目に対して、毎月いくら支出できるかを考えます。支出総額は、収入総額と同額にします。そして、それぞれの支出項目ごとに封筒を用意し、決めただけのお金を入れます。もし使い切ってしまったら、その月はそれ以上の支出を認めないように努力します。

## 親との関係

結婚は二人の個人が結びついたもの以上で、二つの家族の結びつきでもあります。

親との関係は、いつも結婚問題のトップテンに入っています。創世記 2:24 で、「男はその父母を離れ、妻と結び合い、ふたりは一体となるのである」とあります。離れるとはその関係から精神的に独立することを意味し、結び合うとは永遠に結びつくことを意味しています。夫婦のどちらかでも親から離れられないと、問題が生じます。身体的に離れても、心理的に離れていないこともあります。親も子どもを放したがないこともあります。こうして、不健全に親への依存が残ると、夫婦は健全な相互依存関係を形成できなくなります。

神の優先順位を知る必要があります。第一が神との関係、第二が配偶者との関係、第三が子どもとの関係、第四が親との関係です。この優先順位がはっきりしていれば、子ども、親、仕事によって結婚関係がくずれることはありません。

## 信頼を築く

夫婦が互いに信頼できないと、深刻な問題に発展します。信頼することは、愛情表現以上に大切です。夫婦は自分たちの「信頼レベル」を探ります。そのために、「トラ

スト・ウォーク（信頼歩行）」がよく用いられます。これは、一方の人が目隠しをされ、もう一方が5分間の散歩を導くのです。5分たったら、立場を交代します。その後に、以下のことを話し合います。

①いつ相手を信頼していましたか。それはなぜですか。

相手が自分を信頼してくれている時、どのように感じましたか。

②いつ相手を信頼していませんでしたか。それはなぜですか。

相手が自分を信頼してくれていない時、どのように感じましたか。

③信頼したり、信頼を表すことを改善するためには何ができますか。

## ロマンスを育てる

結婚で互いに愛し合うことは、感情をも伴っています。ロマンチックな結婚関係を築くと、結婚への満足度が高まります。多くの夫婦は、結婚年数が長くなればロマンチックな感覚はなくなっていくと思っています。ロマンスは偶然には起こりません。努力して作るものです。

ロマンチックな感覚は、恋をしている感覚です。結婚前の時を思い出してください。互いに相手にどうしていたでしょうか。その時のことを思い出して、互いに優しくしたり、気づかったり、親しくしたり、プレゼントしたり、いっしょに楽しいことをしたりしましょう。

## 互いに肯定し合う

夫婦のよい関係を築くために、お互いを肯定し合います。相手の行動、外見、性格などで好きな点を書き出します。どちらかが、書き出したリストの一つを読み上げます。相手は、それについて感謝を表し、自分の感想を述べます。これを交互に繰り返します。もしできるなら、二人はひざを近づけ、手を取り合い、相手の目を見ながらすることを勧めます。

あるいは、「相手に感謝したい三大経験」を、互いに一つずつ発表することもよいでしょう。あるいは、「私があなたに感謝したいのは、～です」という文章を完成させて、分かち合うこともよいでしょう。

## 霊的一致

夫婦の霊的關係は、結婚において大きな役割を果たしています。ある調査では、夫婦が共に祈ることと、結婚の幸せとは大きな関係がありました。多くの夫婦は、どうしたら霊的關係を築けるのかを知りません。ですから、アドバイスが必要です。共に

聖書を読んで分かち合うこと、共に祈ること、さまざまなことについて神の導きを求めながら話し合っ一致していくことなど、この章に書かれていることを参考にして小さなことから始めていきましょう。

## 深刻な結婚問題

結婚の優先順位をまちがえると深刻な問題に到ることがあります。たとえば、子どもや仕事を第一に考えている人の配偶者は自分が軽く扱われているように感じるでしょう。問題が解決されず、ニーズが満たされないと、怒りや欲求不満を生じるようになり、不倫に到ることもあります。

一般的に、不倫は以下のような過程を通して起こります。

1. 基本的ニーズが満たされず、孤独感や恨みがたまる。
2. 配偶者以外の誰かと知り合う。
3. 満たされなかったニーズの一部が満たされるような経験をする。
4. その人が自分の配偶者にはないものを持っているように思うようになる。  
たとえば、配偶者よりも話をきいてくれる、思いやりがあるなど。
5. 配偶者と情緒的距離がひらく。
6. 婚外恋愛をしていると罪意識を感じたり、落ち込んだり、自分や配偶者に対して怒りを覚えたりする。配偶者の弱さに焦点が集まる。逆に、自分の感情を隠すために、配偶者に優しくなる場合もある。
7. 配偶者に対して愛情を感じなくなる。
8. 婚外恋愛は結果的に性的関係に到ることがある。
9. 不倫を正当化しようとする。たとえば、「私は、あの人と結婚すべきではなかった。」  
「何も共通点はない」など。
10. 離婚、別居、継続の決断をする。

不倫を防ぐためには、絶えず自分の心を見張って、神と自分の配偶者から目を離さない必要があります。不倫は、許される選択肢ではありません。深刻な結婚問題を抱えていると感じている人は、現在自分が、上記の10の段階のどの段階にあるのか、心の内を探ってみましょう。そして、一人で解決できると思わないで、信頼できる人に相談することが大切です。

一時的に甘美な空想の世界に浸っていないで、後に待っているのは悲惨な結果しかないことを知る必要があります。問題解決への取りかかりが早ければ早いほど、解決は容易になります。この章に書かれているような、豊かな結婚のためのセミナーやカ

ウンセリングに参加することも、関係改善のために役立ちます。

## 離婚

離婚は結婚において解決されない問題の結果です。どのような理由であれ、離婚はいつも悲劇です。

### 離婚経験者が通る過程

#### 1. 距離があく時期

夫婦間での問題が大きくなり、別居や離婚を考える時期です。多くの場合、カウンセリングによる助けが必要です。

#### 2. 移行期

離婚の申し立てをしてから感情的に離れるまでの時期です。普通、離婚後 2 年くらいまでの時期です。特に最初の頃は、サポートが必要です。この時期の人たちは、約束を忘れたり、不必要な買い物をするなどの問題が見られます。孤独や怒りを感じています。家事と育児、仕事をこなしながら、さまざまな手続きをするには、時間もエネルギーも足りません。

離婚のストレスには、以下のものが考えられます。

- ①以前の配偶者との関係：財産や子どもの親権
- ②親子関係：子どもと離婚や離婚後の生活について話すこと
- ③対人関係：新しい友人をつくること
- ④孤独：落ち込む感情、人間として不完全な感情
- ⑤実際的问题：家事、育児
- ⑥経済的問題：生活に必要な収入を得ること

#### 3. 新しい方向づけ

時間の経過と共に、別の問題が現れます。失敗や恥の感情を乗り越え、赦すことの問題です。自分が再び独身になったというアイデンティティの再形成も必要です。家計、性、親族との関係という問題もあります。

離婚は傷を残しますが、多く的人是前に進まなければならないことに気づきます。ある人は再婚を考えます。独身のまま留まる人やすぐには再婚を考えない人は、人生の新しい目標を立てることが必要になります。

### 離婚に関するガイドライン



## 1. 離婚についての聖書の教えにしっかりと立つ

結婚を健全に保つ熱心さと、離婚に対して神の憎しみをもちます。マラキ 2:14-16 『なぜなのか。』とあなたがたは言う。それは主が、あなたとあなたの若い時の妻との証人であり、あなたがその妻を裏切ったからだ。彼女はあなたの伴侶であり、あなたの契約の妻であるのに。神は人を一体に造られたのではないか。彼には、霊の残りがあつた。その一体の人は何を求めるのか。神の子孫ではないか。あなたがたは、あなたがたの霊に注意せよ。あなたの若い時の妻を裏切つてはならない。『わたしは、離婚を憎む。』とイスラエルの神、主は仰せられる。『わたしは、暴力でその着物をおおう。』と万軍の主は仰せられる。あなたがたは、あなたがたの霊に注意せよ。裏切つてはならない。』

クリスチャンの間で離婚が増えたからと言って、聖書の教えを曲げてはなりません。ただし、離婚の理由をどこまで認めるかは、牧師や教会によって意見が異なるでしょう。離婚の理由として、相手の不倫以外は認めないのか。たとえば、相手が不倫はしていないが、虐待をする場合、家庭を全く顧みない場合などは離婚が許されるのかなどについては、それぞれの教会の指導に従いましょう。

## 2. 離婚した人へ恵みを与える

神は離婚を憎まれますが、離婚は赦されない罪ではありません。悔い改めたなら、赦されます。離婚したクリスチャンは、大きな痛みをかかえています。自分が神と教会から切り離され、失敗したクリスチャンであると感じています。離婚した人が、教会内で一段劣つた人のように感じるようなことがあつてはなりません。

主イエスが、示された態度から学ぶことが大切です。不倫の現場で捕らえられた女性(ヨハネ 8:3-11)、5回結婚し現在は自分の夫ではない男性と暮らしている女性(ヨハネ 4:17-18)に対して、主イエスは非難よりも、赦しの態度で接しておられます。

## 3. 離婚カウンセリングを提供する

- ①教会は離婚を防ぐことを第一に考えます。聖書から結婚や家庭生活について教え、きちんとした結婚前カウンセリングを提供しましょう。
- ②可能な場合は、和解を目指し、離婚しないで済むように助けます。
- ③和解の希望がなくなった時は、悲しむ過程に入るべきです。事態の改善が見られないのに、和解の希望を持つように励まし続けることは、離婚からの回復を遅らせることになりがちです。
- ④不公平にならないようにします。離婚で傷ついている人の話を聞くと、同情してその人の側についてしまいがちです。しかし、当然、相手にも言い分があります。できるだけ両者の話を、公平に聞くようにします。

⑤教会の中でサポートしてくれる人を見つけましょう。当事者の痛みがわかり、共に祈り、支えてくれる人、同性で、信仰が安定し、秘密を守れ、公平で、必要な時には断ることができる人、励ましを与えることができる人が理想です。

⑥離婚経験者のサポートグループがある場合は、参加することを勧めましょう。離婚経験者でなければわからない孤独や怒りへの対応、家事や子育てと仕事の両立、経済的なことなど、離婚後の生活に適応する大きな助けになります。

⑦虐待がある場合は、避難できる施設などと連絡をとれるようにしておくといでしょう。

⑧すべて教会内で解決できると考えないで、クリスチャンのカウンセリングの専門家や精神科医と連絡をとれるようにしておくことも大切です。

## 第7章 子育て

子育てについて確信を持って語ることは、誰にとっても容易ではありません。特に、自分の子どもがいる場合はなおさらです。ある牧師は、まだ自分の子どもがいない頃、「親への十戒」というタイトルの講演をしました。最初の子どもが生まれてからは、タイトルを「親への7つの原則」に変え、子どもが3人になった時は、「親への3つの提案」にしました。そして、自分の子どもが十代になった時には、とうとう子育てについて講演することを止めてしまいました。

子育ての仕方については、定まった見解はありません。厳格なしつけがよいとする人、できるだけ子どもの好きなようにさせるのがよいとする人、クリスチャンであっても体罰容認派と否定派に分かれます。自分が所属する教団・教派の考え方、自分の親の子育ての仕方、学んだこと、自分の好みや経験によっても、子育ての仕方は変わります。

親子関係は人生の中で、もっとも長く続く人間関係の一つです。そして、もっとも身近な関係です。さらに、もっとも犠牲を要求し、エネルギーとお金を消耗させるものでもあります。

夫婦は、それぞれが自分なりの子どもへの態度を持って結婚しています。ある人は子どもを喜び、ある人は子どもを自分の言いなりにしようとしします。多くの場合、自分が育てられたそのままのパターンを繰り返します。

この章では、子育てについて大切なことを見てみましょう。

### 子育ての目的

子育てにおいて、以下の3つのうち、どれが欠けても充分とは言えません。

#### 1. 神への愛を育てる

イエスは一番大切な戒めとして、次のようにおっしゃいました。「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」(マタイ 22:37)。子育ての目的は、神への愛を育てることです。「主の教育と訓戒によって育て」(エペソ 6:4) ることが重要です。

## 2. 自分自身を尊重する

自分が神に愛されているという事実をわかるようにします。パウロは子どもの内面への配慮を忘れていません。「父たちよ。子どもをおこらせてはいけません。彼らを気落ちさせないためです」(コロサイ 3:20)という言葉は、子どもが自分を嫌いにならないように配慮することを含んでいるように思われます。

## 3. 他の人を尊重する

イエスは二番目に重要な戒めとして、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」(マタイ 22:39)とおっしゃいました。他の人を愛し、尊重する子どもになることも大切です。

## 子育てのガイドライン

### 1. よい子育ては完璧を求めない

子育ての土台も信仰の土台と同じで、「完璧さ」ではなく「愛と赦し」です。完璧を求めないことで、親は自分たちでも何とかできるという希望を持てます。

### 2. 親の子どもに対する責任には限界がある

親の影響力を強調しすぎると、子どものすべての行為に対して親に責任があるように感じてしまいます。もちろん、親には子どもに対して果たすべき責任があります。しかし、聖書の中でも、親に逆らう子どもは、子ども自身の責任が問われました(申命記 21:18-21)。親は子育てに関してベストを尽くすべきですが、子どものすべての行為に対して責任があるわけではありません。子どもが自分の行為には自分で責任をとれるように育てることが大切です。

### 3. よい子育ては、よい関係作り

親は子育てのテクニックに集中するよりも、「親であること」に関心を払った方がよいでしょう。子育ては毎日毎日、子どもと接することです。日ごとの経験が子どもとの関係を築いていきます。クリスチャン子育ての専門家であるジャックとジュディス・バルスウィック夫妻が勧める親への最もよいアドバイスは、「子育てのハウツー本を捨ててしまっ、ただ子どもに本当の人として接すること」です。

子育てには完璧な型というものはありません。親は間違いを犯すことを心配するこ

とにかける時間を少なくし、子どもにとってただ親であることにもっと時間を使ったらよいのです。間違ったことをしないかと心配ばかりするよりも、積極的によいことを励ましたらよいのです。

よい子育ては、温かい人間関係を築くことです。これは、しつけをしないということではありません。「主はその愛する者を懲らしめ」(ヘブル 12:6)と書かれています。主と同じ愛をもって、子どもたちとの関係を築くことが大切です。

#### 4. よい子育ては柔軟である

子育てには、子どもと親の年齢が大きく影響します。40代の時の子育ては20代の時と同じようにはできません。子育てには親の柔軟さが要求されます。子どもも成長段階に応じてニーズが変化します。子どもの性格によっても、子育ての仕方を変える必要があります。時代の変化にも対応する必要があります。よい子育ては、柔軟であることが大切です。

#### 5. よい子育ては健全な自己概念を育てる

すべての人は神のかたちに創造されているので、価値があります。さらに、子どもは親の所有物ではなく、神から一時的に預かっているものです(詩篇 127:3)。ですから、親は神の視点に立って自分の子どもに接することが大切です。よい子育てをすると、子どもが自分に価値があると感じるようになります。自分自身をよく思っている子どもは、よい行いをするようになります。

クリスチャンに対して語られている原則は、子育てにも当てはまります。「無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな捨て去りなさい。お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい」(エペソ 4:31-32)。親は子どもの内面を考える必要があります。子どもを怒らせず、気落ちさせてはなりません(コロサイ 3:21)。

#### 6. よい子育てはセルフコントロールを育てる

よい子育ては、将来、子どもが親から独立して自分で正しく判断できるように育てることを目指します。そのためには、自分のした行為には結果が伴うことを教える必要があります。行為の結果として受ける賞罰が、現実の生活で受ける賞罰に近づくほど、子どもは自分で判断できるようになります。自分と親との関係でしか物事を考えられない子どもは、間違いを犯しやすいものです。自分の行為を他の人、神、自分自身の幸せと関連づけて見られるようにすることが大切です。

## 7. よい子育ては共感性を発達させる

自分の行為が、他の人に影響を与えることに気づかせることが大切です。他の人の権利を理解することも重要です。親は子どもの行為が他の人の内面に影響することを教えるために、自分が感じたことを伝えるとよいでしょう。「神を愛し、人を愛する」ことが、行動を導くようになるように育てましょう。

## 8. よい子育ては親の権威を認める

親の権威は神より授けられているものです。聖書は、「子どもたちよ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことだからです」(エペソ 6:1)と教えています。ただし、親の権威は神の価値と基準という枠内に制限されています。ですから、愛をもって行使されなければなりません。

## 9. よい子育ては行動変容を考える

子どもの行動に対して、賞罰を適切に与えることによって、よい行動を奨励し、よくない行動を抑制するようにします。多くの箴言が、罰を与えることによって行動を規制することを教えています(箴言 13:24; 19:18; 23:13)。主の懲らしめについては、ヘブル人への手紙にも書かれています(ヘブル 12:5-7)。

## 10. よい子育ては、子どもの性質を考慮する

最近の親のトレーニングプログラムは、子どもの性質を基本的に善であるとしています。子どもの間違った行動は、自分のニーズを満たそうとしただけであると解釈します。また、行動主義者たちは、人間の性質に対して中立の立場です。行動を倫理的に良いとも悪いとも判断することを拒みます。人間の意志を否定し、すべての行動は外的状況に条件づけられたものであるとみなします。

以上のような人間観に対して、クリスチャンは間違った行動は罪の結果であるとみなします。しかし、創造されたときの神のかたちを完全には失っておらず、価値ある存在と見ます。このように、子どもの尊厳と罪との両面を知っていることが、クリスチャン子育ての特徴です。

## 間違った行動

間違った行動に対処するためには、その原因を注意深く理解する必要があります。人は神のかたちに創造されましたが、罪を犯しました。そのことから考えると、たと

え親の希望と合わないものであっても、子どもの行動には神の創造の業が現されている可能性があります。幼い子どもが、食べ物を何でも手でさわったり、騒いだりすることは、必ずしも罪の現れとは考えられない場合もあるでしょう。

しかし、子どもの行為には、自己中心であり、正しくないものがあります。子どもには神や親に反抗しようとする性質もあります。

親は子どもが間違った行動をしたと感じた時、多面的に考えてみてください。この行為は、神の基準、価値観に反していないだろうか。これは子どもの正当な行為ではないのか。あるいは、その行為は親の対応が悪かったせいではないのか。などと考えてみましょう。

## しつけ

子どもたちは適切なしつけによって、自制力があり、責任ある大人になっていきます。効果的なしつけの一つの方法は、自然な結果を経験させることです。神はイスラエルに選択させ、その結果を経験させました。自分たちの蒔いた種の刈り取りを経験しました。同様に、子どもたちも自分たちの行動の結果から一番よく学びます。

子どもの不適切な行動を親が罰するという事は、親にすべての責任があるという考え方です。子どもたちにとって、自分の間違った行動がよくない結果につながることを学ぶことのほうが、最終的な責任は自分にあることを理解できる助けになります。子どもが自己修正し、適切な境界を自分で決めることができるようになることが、自分の行動に対して責任を持つことです。

子どもたちが自分の行動に自分で責任がとれるようになるために、親ができることは何でしょうか。まず、子どもに妥当な制限を与え、その制限を超えた場合にどんな結果が起こるかを話します。たとえば、小さな子に道路に出てはいけないということを教える場合、その理由を説明し、これを破った場合は家の外に〇時間出られないというようなルールを決めます。そしてこのルールをしっかりと適用します。子どもがこの決まりを破った場合には、言葉で叱る必要はありません。この目的は子どもを叱ることではなく、子どもが自分の行動の結果を意識するようになることです。こうして子どもは適切な制限を学び、自制できるようになっていくのです。

家庭のルールづくりの場に子どもたちも参加させましょう。そして全員が納得できるルールを考えましょう。子どもたちの年齢に合ったルール決めが大切です。そしてルールは家族全員に適用されます。たとえば、「使った食器を流し台に入れたままにしない」というルールを家族全員で決めたなら、全員がそのルールを守らなければなり

ません。父親がこのルールを破った場合は、本人が食器洗いをしなければいけません。

家族全員の話し合いを通して、子どもたちは、平等、発言の自由、公平さというような民主主義の原則を学びます。親は子どもたちが失敗してその結果を学ぶことを背後で見守る時、破壊的な結果を招かないために介入する必要がある時を賢く判断する必要もあります。

叱る時は、子どもの行為と子どもの価値とを明確に区別することが大切です。子どもの行いを改めさせることが目的であって、子どもの存在を否定することにならないようにすべきです。叱るべきことが起こったら、できるだけ間をあけずに叱る必要があります。そうすることによって、子どもの不適切な言動と叱られるという結果が結びつくようにします。叱る時は、まずよくない点を具体的に説明してわからせることが大切です。叱り終わったら、子どもを抱きしめて、共に悔い改めの祈りをしましょう。神は私たちが悔い改めたら赦してくださるのですから、親も同じようにすべきです。子どもが悔い改めたら、ずるずると同じことを言い続けないようにします。そうすることで、神が義なるお方だけでなく、愛なるお方であることを教えることができます。

## 罰を与えること

私たちは、しばしば「しつけ」と「体罰」を混同します。ある大きな調査の結果では、親の情緒的サポートがない状態では、体罰がふえるにつれて、子どもの問題行動もふえるという結果がわかりました。

体罰を与えることに関して、専門家の間には意見の相違が見られます。子どもの虐待になるような体罰は認められるべきではありません。子どもたちは温かく、励まされる環境で育てられるべきです。

体罰を勧める聖書箇所としてよく用いられるのは、以下の箇所です。「むちを控える者はその子を憎む者である。子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる」(箴言 13:24)。「主はその愛する者を懲らしめ、受け入れるすべての子に、むちを加えられるからである」(ヘブル 12:6)。しかし、私たちは羊を牧するときむちがどのように使われたのかを知る必要があります。むちは羊を罰するために使われたのではなく、まちがった方向へ迷い出る羊を導くために用いられたのです。

体罰は最後の手段として、めったに使わないようにしましょう。子どもに暴力を教えるようなことになっては、逆効果です。よく説明してから、ケガがないように注意しておこないます。子どもが失敗したことに対してではなく、道徳的な間違いに対し



ておこないます。

たとえば、間違っコップを倒してしまった時には、体罰は与えません。繰り返し親に反抗したり、うそをついたりするような場合に用います。親が自分の感情のコントロールできる状態の時に、体罰を与えます。あまり感情的になっている場合は、感情が冷めるまで待ちます。体罰は子どもが小さいうちに用いるもので、十代の子どもに体罰を与えると心に傷が残ります。

社会科学の知見より、罰の一般的性質は以下のように考えられています（藤田和生「ヒトの学習の特徴：生物学的基盤」、波多野誼余夫、大浦容子、大島純編著『学習科学』p.80）。

第1に、罰は何をしてはいけなさを教えるには効果的ですが、何をすればよいかを教えるには効果的ではありません。罰を逃れるための、あらゆる反応が強められる可能性があります。また、当事者にとっては、仮に罰が来なくても、それが望ましい行動をとったからなのかどうかよくわかりません。

第2に、罰を与えると副作用として種々の反射が生じます。たとえば心拍数が上がったたり、体がこわばったり、怒りがこみ上げたり、恐怖に陥ったりします。多くの場合、これらの反射は望ましい反応と反対のもので、恐怖におののく子どもに、新たな行動をとらせることは難しいのです。

第3に、罰は学習意欲を減退させることがあります。

第4に、罰は、罰を与える対象への攻撃行動を誘発することがあります。

このような理由から、社会科学の立場からも罰は限定的に使用すべきであることがわかります。報酬を与えたりほめたりすることのほうが、行動を望ましい方向に導いていくには効果的です。

## 神の存在を意識できるようにします

子どもが神を意識できるようにすることは、クリスチャンの子育ての最大の特徴であり、特権です。パウロはエペソ 6:4 で次のように述べています。「主の教育と訓戒によって育てなさい。」

子どもにとって両親は、地上にあって神を部分的に代理する者です。親の養育態度が、子どもにおける神のイメージ形成に大きく影響します。親は、「神はこういうお方である」ということを、言葉と行いをもって子どもに示す必要があるのです。

## 「手段的」と「社会情緒的」リーダーシップ

リーダーシップとスモールグループに関する研究結果から、子育てには二つの異なったリーダーシップが関わっていることがわかります。その二つとは、手段的リーダーシップと社会情緒的リーダーシップです。

手段的リーダーシップは、グループ内で達成すべき物事に焦点を当てた仕事中心の導き方です。目標を定め、活動を組織します。手段的リーダーシップは、家庭内で、子どもたちに信念、価値、態度を繰り返し教え込むことを目標にします。子どもたちに知るべきことを教え、どのように行動すべきかを教えます。

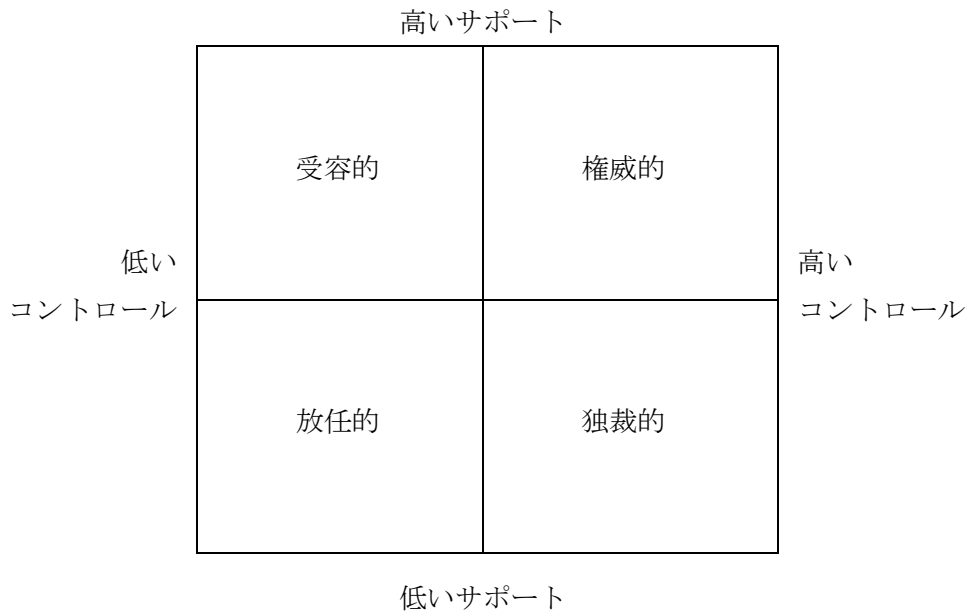
社会情緒的リーダーシップは、グループ内での健全な人間関係を維持しようとする人中心の導き方です。家庭内で親子間の情緒的關係に注意を払います。

家庭がうまく機能していくためには、どちらのリーダーシップも大切です。そしておもしろいことに、これら二つのタイプのリーダーシップは一人の人が兼ね備えていることは、あまり見られません。

## 子育ての4つのパターン

ミネソタ大学の研究から、子育てには2つ要素（コントロール、サポート）が関わり、4つのパターンに分類できることがわかりました。コントロールとは、子どもの行動を管理できる親の能力のことであり、サポートとは、子どもが愛されていると感じられるようにできる能力のことでです。

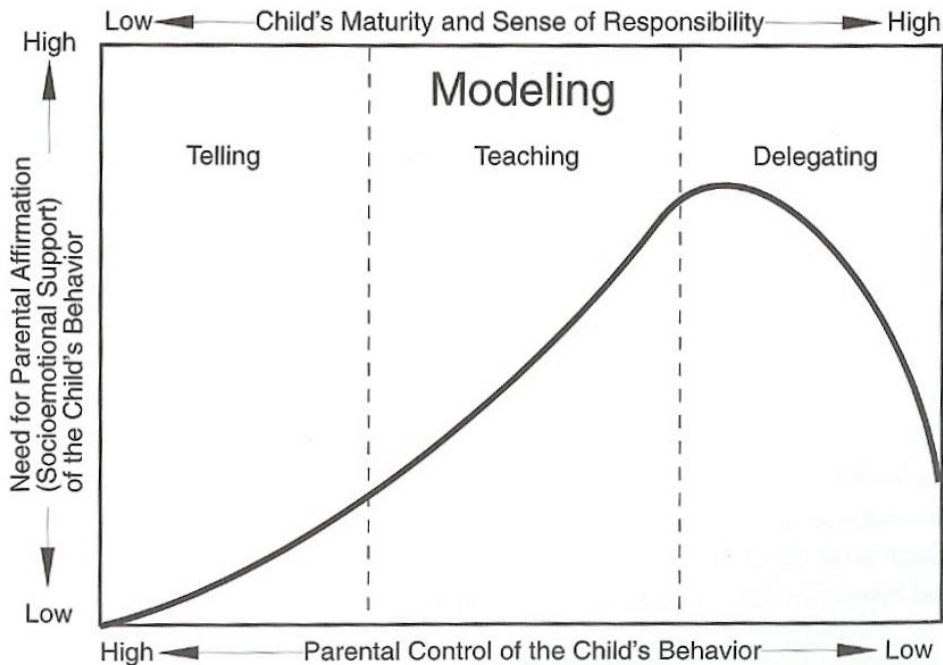
この研究の結果わかったことは、高いコントロールと高いサポートがある親のもとで育つ子どもは、親の価値観に従うことです。親の信じている宗教を受け入れたり、自分に価値があると感じる感覚も高くなります。反対に、親が独裁的や放任的であると、子どもは親の価値観に反した行動を選ぶ度合いが高まります。



### 成長できるように励ます

下の図は、クリスチャンの子育てが子どもたちを成熟へと導いていく過程を表しています。このカーブは親のコントロールと社会情緒的サポートのレベルを表しています。このレベルは、異なった子育ての型（指示する、教える、モデリング、ゆだねる）によって変わります。一番左の端では、親からの励ましはほとんどなく、依存的な子どもにします。反対の右端は、子どもが自立することを表しています。

第一の子育てスタイルは、「指示する」です。これは親が子に一方的に何をいつ、どのようにすべきかを言います。子どもが幼くて自分で何をしたらよいかわからない時、明確な指示と密接な監督が必要です。この時期の子どもたちは、無条件の（課題と関係のない）社会情緒的サポートが必要です。この図では、子どもに身につけさせたい課題に関しては、社会情的サポートが親に従順であったほうびとして与えられるので、レベルを低く表しています。



Adapted from Paul Hersey and Kenneth Blanchard, *Management of Organizational Behavior*, 4th ed. (Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall, 1988), 287.

(The Family, p.118)

第二の子育てスタイルは、「教える」です。これは子どもたちの成熟度が低い時から中程度の時に用いられます。子どもたちが成長するにつれて、自分でやってその責任をとろうとします。しかし、いつもやり方を知っているとは限りません。「教える」スタイルには、中程度の親のコントロールと社会情緒的サポートがあります。「教える」が「指示」とちがうのは、指示は一方通行でしたが、教えるのは親子の対話によります。

第三の子育てスタイルは、モデリング（参加する）です。モデリングは、子どもの成長の全期間に関わることですが、特に思春期直前の子どもに重要です。親はプレイヤー兼コーチとして子どもとの活動に直接関わります。教えることに加えて、親の適切な行動を子どもが模倣して学びます。この時期の子どもたちは、ものごとを自分でする能力を持っているのですが、まだ自信に欠けています。親を模倣することによって自分自身であることを励ませます。

第四の子育てスタイルは、「ゆだねる」です。これは、自分自身でいろんなことができ、その責任をとることができる成熟した子どもに対するものです。高いレベルのコントロールも社会情緒的サポートも、子どもの自信を育てる妨げになりがちです。この段階では、成熟した親は、子から学び、力づけられます。子どもたちを尊敬し、信

じて、徐々に選択の自由を与えていきます。そして、親と違った意見を持つ自分を認めます。これは、大人同士の相互の信頼を育て、子どもたちが独立した成人になることを励ますこととなります。

親は子どもの成長に従って、子育てスタイルを変えて行く必要があります。このような子育てスタイルを変えて行くことは、イエスが弟子を訓練された過程と同じです。

## モデリング

親が手本を見せることによって、子どもは多くのことを学んでいます。モデリングの効果は、学習理論でも裏づけられています。モデリングは完全さを要求しません。親は完璧な見本を見せようとする、欠点や弱さを隠そうとし、偽善的になってしまいます。そういった態度は、子どもの側に拒絶を生み出しかねません。親は完璧な見本ではなく、成熟に向かって成長していく見本です。親はありのままの弱さや謙遜さを示すことによって、子どもは神によって赦されて生きるすばらしさを感じるのです。

また、親の考えや感情を子どもと分かち合う時、モデリングはいっそう効果的になります。親の考え方、価値観、倫理基準なども伝わりやすくなります。

## コントロール

親は子どもに対して、神や社会から付与された権威を持っています。特に、子どもの年齢が若いほど、親のコントロールが必要になります。しかし、一般的に親が必ずしも上手にコントロールを用いているわけではありません。

### 1. 一貫した原則によるコントロール

子どもが若いほど、親の言葉だけではコントロールできません。子どもがテレビに夢中になっている時に、おもちゃを片づけるように言った場合どうなるでしょうか。普通、何度言葉で言っても子どもは動きません。母親がどなってようやく動くでしょう。これは、親がどならないと子どもは動かないという習慣を教えていることにもなります。

親は、最初の言葉で子どもが従うように工夫しましょう。この場合でしたら、片づけが済んだらテレビをつけるという約束をして、それを守るようにしたらよいのです。いつも、一貫した原則によるコントロールを心がけましょう。

### 2. 自然の結果によるコントロール

よくない行為をやめさせるには、その行為がもたらす結果を経験させることが大切

です。あまりひどい被害が及びそうな時は、助けが必要な場合もあるでしょう。しかし多くの場合は、親はどんなことでも子どもを助けることがよいとは限りません。自分のしたことの結果を自分で経験して、初めて子どもは身を持って学ぶのです。たとえば、好きなものを食べ続けるとどうなるのか、子どもは経験してわかります。いつも親が規制していると、子どもの執着が続きます。

## コミュニケーション

### 1. 感情を伝える

適切な時に、親が自分の感情を分かち合うことはとても重要です。子どもは、親の感情を通して、自分のしたことの結果を知ることができます。子どものコミュニケーション能力を発達させることにもなります。また、親が自分と同じようにいろいろ感じていることを知ることによって、子どもが自分に自信を持てるようになります。

### 2. 聞くことで子どもに関心を持っていることを伝える

親が子どもの話やその背後にある気持ちを聞くことによって、子どもは自分が愛されていて、価値があることを知ることができます。その反対に、聞かれない場合は、子どもは拒絶され、愛されておらず、自分には価値がないと感じるようになります。

親は子どもたちがどのように考え、感じているのかを知るために時間をとりましょう。そうすることで、子どもたちが自信をつけ、自尊心と正しい決断力を身につけていくのです。

### 3. 言葉と態度を一致させる

親の言葉と態度が一致していないと、子どもたちは混乱したり欲求不満を感じます。ゆがんだコミュニケーションは、家族がきちんと機能できなくなります。

## 赦す

赦すことは親から子への一方的なことではなく、双方向のことです。親は完全ではなく、失敗した時に赦してもらう必要があります。子どもたちも完全ではなく、失敗した時に赦してもらう必要があります。赦し合うことは、無条件の愛に基づいた恵みと受容を実践することです。

## 仕える

子どもたちは家族に貢献することによって、自分たちの存在価値を感じ、家族に所属しているすばらしさを味わいます。子どもたちは、家事を手伝うなどの身体的なことや、家族の一致ややる気を高めたりする情緒的なことでも、家庭に仕えることができます。

## 性教育

性教育は家庭と教会が関わるべき課題です。なぜなら、性教育の中心は、生物学的事実ではなく、倫理と態度の問題だからです。もし、家庭や教会が何もしないなら、学校やマスコミ、子どもの友人たちが聖書の価値観からかけ離れたことを教えることになるのです。

### 家庭での性教育

家庭は性に関して、聖書的価値観を教える第一の場所です。性に関することは、恐れたり隠したりすることではありません。神が人間を性的生物としてお造りになり、性を表現する適切なガイドラインをくださっているのです。親は子どもに性は人間の発達の自然なことであり、神がくださった贈り物であり、性を適切に用いることは素晴らしいことであることを伝えましょう。

性教育は、事実を教えること以上のものです。もちろん性に関する知識は含まれますが、子どもが両親からどのように世話をされ、話しかけられ、抱っこされ、愛されるかも含んでいます。

性教育は、お母さんが新生児を初めて抱いた時から始まります。赤ちゃんがお母さんの腕の中で感じる温かさ、快適さによって、触れ合うことを通しての人間の愛を体験しているのです。このことが後に、性的愛情の基礎を築くこととなります。こういった初期の経験が冷たいものであると、後の性的関係に大きく否定的な影響があります。

両親の態度が、意識しないで子どもに多くのことを伝えます。両親が性に関する言葉や出来事に困惑する態度を示すなら、子どもたちは性はあまり好ましくないものとしてとらえるようになります。親が自分自身と子どもの体に対してどのように感じているかが、子どもたちの性の受容に大きな影響を及ぼします。

また両親の関係が、子どもの性に対する態度に大きく影響します。父親と母親の間の愛情表現は、子どもに性教育をしていることなのです。両親は、子どもの結婚準備

に消すことのできない影響を与えています。

親は子どもたちに意図的に性教育をすることもできます。それは、日常の経験や特別な経験を通してします。テレビの番組の中で性に関する場面が出てきた場合、聖書的な基準をしっかりと教えましょう。たとえば、不倫や婚前交渉は神が望まれていないことを教える必要があります。自宅や友人宅に赤ちゃんが生まれた時は、人間の体や出産について教えるよい機会です。ペットと接することも、性教育の機会になります。子どもたちが性について質問してきた時も、よい教育の機会です。うそを教えなくて、真実を伝えるべきです。へんにごまかすと、子どもたちの好奇心をかえって刺激することになります。

思春期前（12歳まで）に、性交についての知識を伝えておくことが大切です。思春期前なら、客観的に話し合うことができますが、思春期を迎えると情緒的にむずかしくなります。よい本をいっしょに読んで、話し合うことが一番やりやすい方法でしょう。子どもに本を与えるだけでは、親はその話題を話し合いたくないということを伝えてしまいますし、子どもが本当に読んだかどうかはわかりません。必ずいっしょに読むようにしましょう。

思春期以降の性教育で重要なことの一つは、デートの基準をつくることです。実際にデートが始まる以前に、親の協力のもと、子ども自身がデートの基準を考えることが大切です。親は決して自分で基準をつくってはなりません。そのようなやり方は子どもの反抗を招くだけです。子どもには、なぜ神が性を適切な方法で現すことを望んでおられるのかを理解できるように励ますことが大切です。不適切な性の現し方は、神が意図された祝福をなくすものであることを理解できるように助けましょう。

## 教会での性教育

性教育において、教会ができるもっとも重要なことは、両親を教育することです。家庭においてどのように性教育をおこなうかを教え、フォローします。また、よい書物やDVDを勧めます。

教会学校では、特別なことを始めるよりも、まず男と女の先生がいるようにするという事などから始めるとよいでしょう。子どもたちは、男と女の先生が協力している姿を見たり、男女の違いを知ることによって、自然と多くのことを学びます。さらにできるなら、子どもたちへの性教育プログラムをおこないましょう。聖書には性に関して教えている箇所がたくさんあります。



## 第8章 クリスマンホーム

今日、クリスマンホームを築くことは容易ではありません。社会の低い基準と価値観、サタンの攻撃、クリスマンの少なさなどから、神の意図された家庭を築き、維持することはむずかしいことです。キリスト中心の家庭を築くためには、どうしたらよいのでしょうか。

### 家族が家族であること

現代の家庭はホテル化していると言われます。同じ屋根の下にいますが、皆バラバラの生活です。台所、お風呂、トイレなどの共用部分がありますが、基本的には個室の生活が中心で、家族としての一体性は失われつつあります。

そういった流れの中で、私たちはもう一度、家族の原点に立ち返る必要があります。それは、「家族が家族である」ということです。夫婦は夫婦であること、親は親であること、子どもは子どもであること、兄弟は兄弟であること、祖父母は祖父母であることです。もちろん、これらの役割は固定されているものではなく、ライフサイクルの中で、年齢と共に変化していくものです。神が現時点で私たちに与えてくださっている役割（親であるとか、子であること）を感謝して受け入れ、喜んで果たしていくことから、個人のアイデンティティ、価値、生きがいが生まれてきます。

では具体的に、どのようなことが考えられるのでしょうか。

- ・夫あるいは妻であること
  - ・相手のために時間をとる
  - ・愛する
  - ・霊的に養う
  - ・身体的ニーズに応える
  - ・支える
  - ・知的に刺激し合う
  - ・自分たちの家庭の伝統をつくる
  - ・忍耐
  - ・祈り
- ・親であること

- ・子どもを守る
- ・子どもに倫理基準を教える
- ・子どもに機会を与える
- ・思い出をつくる
- ・模範を示す
- ・必要なときにいてあげる
- ・励ます、肯定する
- ・子どもを神様にささげる
- ・祈り
- ・子どもであること
  - ・親に従う、親を敬う
  - ・親と分かち合う（学校での出来事、教会での出来事など）
  - ・家事を分担する
  - ・親を赦す（すべての人が子として、自分の親を赦す必要があります）
  - ・親と連絡を取り合う
  - ・祈り
- ・兄弟、姉妹であること
  - ・連絡を取り合う
  - ・互いに聞き合う
  - ・平和を築く
  - ・祈り
  - ・分かち合い
- ・祖父母であること
  - ・子育てを助ける（自分の子育てのときは余裕がないことが多いですが、孫に対しては余裕を持って見られることが多いです）
  - ・子と孫との意思疎通の橋渡し役になる
  - ・祈り
  - ・聞いてあげる

### 子ども時代に基礎を築く

子どもたちの信仰が育つためには、毎日の生活での家族のやりとり、親の生き方を見ることから始まります。

しっかりしたクリスチャンホームの土台は、乳幼児期に作られます。子どもを妊娠した時から、温かい環境で育て、信頼関係を築くことが大切です。

私たちがありのままに神に受け入れられているように、親は神が子どもに与えてくださった基本的性格、能力、興味、外見、知性を受け入れることが大切です。どの子どもも親から無条件に愛されていると感じる必要があります。何かをしたらとか、何かができたらという条件つきではいけません。

態度、行為、言葉によって子どもが愛されているとはっきり感じられるようにします。どの子にもその子特有の愛されていると感じる方法があるので、親はその方法を学び、用いましょう。たとえば、いっしょに過ごす、触れる、言葉、受容など。

## 家庭のレクリエーション

健全な家庭の特徴の一つは、いっしょに遊ぶ方法を知っていることです。しかし残念なことに、過去 20 年間、家庭のレクリエーションは個人のレクリエーションに取って代わられてきました。たとえば、父親はゴルフ、母親はテニス、子どもたちはゲームなどで過ごし、家族が共に過ごす時間はきわめて少なくなっています。さまざまなレクリエーションを家族で楽しみましょう。一例を以下にあげます。

### ①ファミリーナイト

週に一度、家族によって計画し、家族が楽しみ、聖書を学び、家庭のきずなを深める時です。全員参加が原則です。家族全員の共通の時間が見つからない時は、努力してつくるようにします。楽しい時間になるようにアイデアを出し合い、楽しむことを第一に考えます。

ファミリーナイトは会堂で行うこともできます。経験のある家族から、どのようにファミリーナイトを行うか、実際に見せてもらおうとよいでしょう。本や多くの人の経験などからアイデアを得て、実際にやってみましょう。

### ②楽しい缶詰 (カン オブ ファン)

夕食後、小さい空缶をテーブルに持ってきます。家族全員に小さな紙を何枚かとペンを配ります。そして、家族みんなでしたら楽しいと思うアイデアを書いて、缶に入れます。週に一度、缶から一枚引いてそれを行います。

たとえば、アイスクリーム屋へ行く、ゲームをする、ピクニックに行く、枕投げ、どこかわからない所へ家族を連れて行く、みんなで読書、ディスカッションナイト (話

し合いたいことを紙に書いて、引いた紙に書いてあることを話し合う)、一人一人のよいところを誉め合うなどなど。

## 霊的養育・信仰継承

家庭における霊的成長で一番大切なことは、家族がどのように信仰を生きているかということです。ただ単に、礼拝に出席し、食前の祈りをし、クリスチャンと呼ばれることが霊的成長につながるわけではありません。信仰が生活のあらゆる領域に浸透し、自然であることがベストです。信仰についての話が、日常会話の一部になっているとよいでしょう。

日常の生活を通して、聖書の真理と価値観を教えることが大切です。聖書もこのことの重要性を強調しています。「これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。これをしるしとしてあなたの手結びつけ、記章として額の上に置きなさい。これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい」(申命記 6:7-9)。

一般の教育は、動機づけされていない生徒に教えますから、効果が低くなります。しかし、家庭生活においては、子どものニーズに敏感に応えれば、もっとも効果が高い教育になります。

親は子どもとの日常会話の中で、子どもが信じていることを知り、必要な場合には間違った考えを修正します。子どもの質問の数だけ、教える機会があると考えられます。テレビを見ながら、その内容について話すのもいいでしょう。

親自身が霊的成長の目標に向けて生き、努力している姿を見せることが大切です。子どもは親が見せかけだけか、本当に価値を置いているかを敏感に感じ取ります。これは、親が完璧でなければならないということではありません。

親は真剣に霊的成長を求め、神との関係を正直に子どもに話せることが大切です。霊的成長における自分の失敗やすばらしい体験を分かち合えることが、子どもによい影響を与えます。

霊的成長のためには、親子が時間をいっしょに過ごす必要があります。よい人間関係の中で、子どもから質問が聞け、親も丁寧に答えることができます。このことは、仕事中心の生活ではできません。子どもの霊的成長を真剣に考えるなら、親は仕事を変えたり、出世を遅らせたり、子どもが小さい時には仕事を辞めるという決断をしなくてはならないかもしれません。親は祈りを持って神に聞き、優先順位を明確にする必要があります。そうしてのみ、聖書の優先順位に合ったライフスタイルを築くこと

ができるのです。

教会出席と奉仕に参加することも重要です。それがないとクリスチャンは成長しません。家族ぐるみで、貧しい人、お年寄り、障害を持った人、配偶者を亡くした人、病人などを助けることも大切です。家族がいっしょに奉仕することによって、親は奉仕の大切さと動機（神の愛）をよく伝えることができます。

社会正義について教えることも大切です。暴力、いじめ、差別などについて、キリスト教の価値観をしっかりと教え、行いをもって示す必要があります。神のかたちに造られたことによる命の尊厳、神が創造された世界を正しく管理する責任を教え、行動に現します。親は絶えず自分の言葉、行為、所有物によって子どもにどんな価値観を伝えているか自己吟味する必要があるでしょう。

教会は、親が家庭で効果的に子どもの霊的成長に関われるように整える必要があります。教会学校で親を訓練し、家庭において子どもたちを導けるようにすることが理想的です。

## 家庭礼拝、家庭ディボーション

家庭礼拝については、世界中のクリスチャンホームで、さまざまな試行錯誤が繰り返されてきました。その結果わかることは、大切なのは家庭礼拝をするかどうかではなく、家庭内に神様がおられることがよくわかるかどうかです。信仰の継承と成長のために、家庭礼拝が必ずしも必要であるとはいえません。

家庭礼拝がうまくいかない理由の一つは、退屈になることです。親が積極的でなく、創造的でない場合、毎日の家庭礼拝は子どもたちにとっていやな時間になってしまいます。

しかし、工夫された家庭礼拝は、子どもたちへの信仰継承と成長のために大きな効果があります。まず、自分の家庭に合ったやり方をみつけることです。うまくいっている家庭の話聞いて、そのままコピーしても必ずしもうまくいくとは限りません。家族の一人一人が自分にもっとも都合のよい時間を提案し、家族で話し合って時間と場所を決めましょう。たまにできないことがあっても、親は自分を責めないことです。

家庭礼拝を継続するためには、シンプルで短い形式がよいでしょう。しかし、準備をしなくてもよいということではありません。その場でやる内容を決めることは避け、事前に用意をしておきましょう。

決めたとおりに実行するよりも、聖霊の導きに従って柔軟におこないます。一つのみ言葉を通して、誰かが自分の経験を分かち合いたくなることもあるでしょう。また、

誰かが分かち合った内容について、家族の祈りが必要になることもあるでしょう。神の導きと家族のニーズを敏感にとらえて、柔軟におこないきましょう。

家庭礼拝がうまくいくかどうかは、子どもの積極的参加がカギになります。親が一方的に話すのではなく、家族のメンバーが参加できるものにします。いろいろな年代の子どもがいる場合、特に工夫が必要です。年齢に応じた質問を考えることも大切です。子どもの発達に合った活動的で創造的な内容を考えましょう。たとえば、幼稚園の子どもがいるなら、聖書の話の話を聞いたら、それを実際に演じてみることもよいでしょう。子どもには親と有意義でしかも楽しい時が必要です。

子どもは教会学校で習ったことを復習することも好きです。教会学校で教わってきたことの適用を、家族全員で考えることもよいでしょう。親は子どもといっしょに祈り、神の愛を語ってあげることが大切です。

10代の子どもがいる場合は、週に一度でも大切な事柄について自由に話し合える場があるとよいでしょう。よい信仰書を読んで、家族で話し合うことも考えてみましょう。

暗唱聖句も大切です。しかし、親は子どもが暗唱聖句だけで疲れたり、聖書への興味を失わないように配慮しましょう。親は子どもたちを励ましたり、その聖句の適用をいっしょに考えたりします。子どもは意味がわからなくても暗記できますが、できるだけ意味がわかるように助けましょう。しかし、ただの暗記でも無駄ではありません。子どものときに覚えた聖句は、生涯、記憶に留まります。

子どもが自分で祈れるように教えることも大切です。子どもは自分の親が祈っている姿を見ると、自分も祈るようになります。ですから、家庭礼拝でいっしょに祈るとよいでしょう。各人が祈りのノートをつけることを習慣にし、祈りの答えを分かち合うとよいでしょう。食前だけでなく、寝る前、重要なことの前、困難や危機の中でなど、いつでも親子が共に祈ることはすばらしいことです。

## 子どもに救いを説明する

親は子どもの信仰決心を急ぎ過ぎてはいけません。聖霊の導きに敏感である事が大切です。以下のことを心がけましょう。

1. 親は子どもの質問に、誠実かつオープンで子どもが分かる言葉で答えましょう。
2. 決して、恐怖心や強制を用いてはなりません。たとえば、もし神を受け入れないなら、親と別れてしまうなどということは、子どもの将来のキリストとの関係にダメージを与えます。

3. 親は子どもに神の愛を語り、神は子どもに罪の告白とイエスを主・救い主として受け入れることを望んでおられることを語る必要があります。
4. 親は子どもが自分の言葉で答えることのできる質問をすると、子どもがどのように理解していて、救いの決断の準備がどの程度整っているか判断する助けになります。
5. もし子どもが信仰決心の準備が整っていると判断したら、子どもに信仰決心の祈りを勧めましょう。親の後について祈ってもよいでしょう。

## 第9章 さまざまな形態の家庭

今日の日本では、もはや標準家庭という呼び方は死語になりつつあります。両親がいて子どもが一人か二人という家族形態は減少し、単身家庭、片親家庭、さらには子持ちで結婚した家庭が増加してきています。この章では、そういったさまざまな形態の家庭について考えてみましょう。

### 独身成人・シングルミニストリー

誰もが独身で人生を始めます。結婚する人も、ますます結婚年齢が遅くなって、独身時代が長くなっています。また、結婚した人も離婚や配偶者の死別によって、独身に戻る人もたくさんいます。シングルミニストリーは大変ですが、また報いも大きいことが特徴です。若い人の人生が変えられ、献身に導かれる場合も多くあります。

神はすべての人を差別なく愛しておられます。聖書の中では、多くの独身者が、神によって用いられました。新約聖書は、神に仕える生涯を望む者は、独身にとどまることの価値があることを教えています。

主イエスはマタイ 22:30 で「復活の時には、人はめとることも、とつぐこともなく、天の御使いたちのようです」とおっしゃいました。つまり、結婚は地上の一時的なものであって、天で永遠を過ごす時には結婚状態は存在しないのです。

また主イエスは、独身者には3種類あることを述べています。「母の胎内から、そのように生まれついた独身者がいます。また、人から独身者にさせられた者もいます。また、天の御国のために、自分から独身者になった者もいるからです。それができる者はそれを受け入れなさい」(マタイ 19:12)。

パウロは、独身者が神との関係を深める大きな自由を持っていることを認めています(1 コリント 7:32-34)。独身者にはさまざまな自由があります。時間を使う自由、ライフスタイルを決める自由、自分の使命に集中できる自由、神に仕える自由など。

では、シングルミニストリーで気をつけるべき点をいくつか見てみましょう。

### 1. 独身者のタイプ

すべての独身者が同じ理由で独身でいるわけではありません。ニーズも異なります。



それぞれのタイプに合ったミニストーリーを考える必要があります。

たとえば、20代半ばまでの独身者は、独身生活を楽しんでいて、あまり結婚のことを考えていません。しかし、女性は30歳前後から理想的な出産年齢の前に結婚したいという望みが高くなります。独身男性は40歳が近づくと結婚したい気持ちが高まりますが、逆に女性は40歳が近づくと結婚したいという気持ちが弱まります。独身者が定年の年が近づくと、老後をいっしょに過ごす人を求めるようになります。

独身者は以下のようなタイプに分類できます。

- ①未婚の積極的独身者：結婚に否定的で独身生活に肯定的な態度を持つ人たち。独身であることは、時間的にも経済的にも自由で、楽しめ、人との出会いがあります。このような人たちは、教会においても積極的に奉仕に関わることができます。
- ②未婚で結婚を望んでいる独身者：彼らの多くは、失望や不安、不満と戦い続けます。そして徐々に、独身であることを受け入れるようになります。
- ③離婚して独身になった人：この中には再婚を望む人と望まない人がいます。
- ④配偶者と死別して独身になった人：この中にも再婚を望む人と望まない人がいます。

## 2. 教会を心地よい場所にする

第一に重要なことは、独身者も普通に教会生活ができるようにすることです。独身者は、他の成人たちと等しく扱われることを望んでいます。そのためには、独身者に「特殊な人」とか「その他の人」という感じを抱かせないようにすることが大切です。独身者が教会にとって重要であることが伝わるようにします。そのためには、教会のすべての活動を独身者に開くようにします。独身者だけがまとめられて、教会全体から切り離されたように感じないように配慮しましょう。

## 3. アイデンティティの確立と対人関係

問題を分かち合えるような友人がいるかどうかで、生活の満足度が大きく左右されます。特に若い独身者は、対人関係の築き方がよくわからない場合が多くあります。関係を築くには、与えることと、受け入れることが必要です。

親しい関係を築くためには、自分が誰であるかというアイデンティティを確立することが大切です。アイデンティティが確かであるほど、人間関係の失敗や拒絶を恐れずに、親しい関係を築くことが可能になります。アイデンティティの確立のためには、自分の価値を知る必要があります。そうすれば、自分と違った人とも親しくなることが可能です。以上のように独身者には、まずアイデンティティの確立を助け、次に人間関係を築ける助けを与えるとよいでしょう。

#### 4. 独身者と性

多くの教会が独身者と性の問題を避けて通るために、独身者の性を否定したり、無視したりしています。結婚前の性的関係について4つの立場があります。①自制、②二重基準（男性は許可、女性は不許可）、③愛があれば許可する、④愛がなくても許可する。

クリスチャンは伝統的に「自制」を重んじてきました。多くの若者は、愛があれば性的関係を持ってよいと考えています。クリスチャンはキリストにある自由を喜び、聖書以外の規則に縛られる者ではありません。聖書は性的関係を結婚の内に限定しています。

聖書の基準を守ることをむずかしくしている原因はいくつもあります。たとえば、聖書の時代には結婚は若い年齢であることが多かったのですが、現代では晩婚化が進んでいます。また、かつては社会全体が聖書の基準を守ることができるように助けるようになっていましたが、現代では若者は性的刺激の爆弾を浴び続けています。

性的刺激にはいわゆる「逡減の法則」が働きます。同じ刺激が与える効果は、どんどん減っていきます。たとえば、最初は手をつないただけでワクワクしたのに、次の時からは手をつないただけでは最初の時のようなワクワク感を感じません。私たちはより強い刺激とより親密な関係を求める傾向があります。そして前の段階に戻ることはむずかしくなります。つき合う二人は、この事実をよく意識しておいて、身体的接触の適切な限度をあらかじめ決めておく必要があります。偶然にまかせたのでは、無責任になります。

つき合う二人は、関係のすべての面でコミュニケーションを深めることが大切です。社会的、情緒的、心理的、霊的な面で互いの理解を深めることが大切で、身体的関係だけが突出することは避けなければなりません。関係が偏って、もろくこわれやすいものになります。関係は親しい分かち合いで強められます。たとえば、楽しいことをいっしょにしたり、過去と現在の痛み・失望・喜びなどを分かち合ったり、将来の夢を語り合ったり、共に祈ったりすることです。神が二人の関係の中においてくださることを求めていくことが大切です。

人格の成熟度は必ずしも年齢に比例するわけではありませんが、一般に若いほど未熟です。実際に、10代で結婚する人の多くは離婚します。

#### 5. その他の注意点

①独身者のニーズが異なるので、一つのプログラムですべてをカバーすることはできません。

②独身者は、生活拠点がよく動きます。したがって、同じ教会に長い間とどまることはまれです。失望しないようにしましょう。

③すべての独身者にすべてのことをすることはできません。あなたの地域にはどんな独身者が多いかを考えましょう。学生、高齢者、シングルペアレントなど。

④独身者は共同体を必要としています。独身の最大の不利な点は孤独であると、多くの人が答えます。独身者は自分が所属できる場所を求めています。独身者が所属できるスモールグループがあるとよいでしょう。奉仕できる機会を与えることも大切です。

⑤赦しを強調します。多くの独身者が劣等感や過去にした決断への後悔、将来への不安を抱えています。神の視点から見て、自分が愛されており、受け入れられていることを知る必要があります。

⑥クリスチャンとしてのデートのルールを教えます。多くの独身者は、結婚の相手を求めているので、グループの中でデートが始まることは自然です。

⑦クリスチャンの水準を守ることに努めます。未信者が多いと、そのスタイルに流されやすくなります。たとえば、同棲などを認めないようにしましょう。もし、すでに同棲している人が加わった場合は、独身者のグループではなく、結婚している人のグループに加わって聖書を学んでもらうのがよいでしょう。そしてその間違いに気づき、別れるか、結婚するかを選択を励ますとよいでしょう。同棲している人たちに別れてから教会に来るように言うと、ほとんど人が教会から離れてしまいます。

## 片親家庭（シングルペアレント）

結婚して出産した後、離婚したり配偶者の一方が亡くなった場合、シングルペアレント（母子家庭、父子家庭）になります。あるいは未婚で出産した場合にも、シングルペアレントになります。シングルペアレントには、特に以下のことを配慮しましょう。

### 1. 経済的関心

母子家庭においては、特に離婚後の1～2年は収入がかなり落ち込みます。その後も以前のように収入がありません。

教会は、経済的なアドバイスと支援をできるとよいでしょう。予算の立て方、家計のやりくりの仕方などを教えて助けましょう。また、就職の支援もできるとよいでしょう。経験者が、履歴書の書き方や面接の仕方を教えることができると大きな助けになります。

## 2. 子育て

仕事をしながら 1 人で子育てをすることは、大変なストレスです。親から子への接触は減少し、子どもに否定的な影響を与えます。

教会ができることは、

- ①シングルペアレントセミナーを開き、創造的子育ての方法や、子どもを離婚の否定的影響から守る方法について教えます。
- ②霊的成長の機会を提供します。
- ③以前の配偶者との関係のあり方を教えます。自分のプライドや怒りのために、子どもを犠牲にしてはいけません。子どもにとって何が一番必要かを考えるように導きます。

## 3. 社会生活

シングルペアレントはしばしば、孤独、拒絶感、無能力、希望のなさ、傷つきを感じています。教会ができることは、

- ①シングルペアレントを対象とした教会学校のクラスを持ちます。その場で、必要な教えやサポートを提供できます。
- ②教会の家庭的雰囲気の中に招きます。シングルペアレントであることを特別に意識させることなく、教会の中に自然に溶け込めるように手助けしましょう。
- ③再婚の手助けをします。離婚した人の多くが再婚します。教会は、適切な再婚の準備を提供します。結婚のあり方、離婚の防ぎ方を教えます。また、結婚を希望している同年代の離婚経験者、配偶者を亡くした人、独身者と接する機会を提供します。

## 4. 霊的生活

「なぜ、神は私と私の子どもに離婚を経験させたのでしょうか。」離婚経験者の多くが、この疑問を抱えています。この疑問の答えは、当事者が見つけなければなりません。ですから助ける側は、その質問に直接答える必要はありませんが、その気持ちを理解する必要はあります。クリスチャンで離婚を経験した親は、次のように感じるものがよくあります。

- ・自分の罪のために罰せられた。
- ・永久に消えることのない「離婚経験者」という烙印を押された。
- ・クリスチャンの中で、一段低い階級に属することになった。
- ・性欲をコントロールできない人と思われている。
- ・結婚するにあたって、神様から重要な教えを学ぶことに失敗した。

- ・自分たちの子どもも親と同じ問題を繰り返すだろう。
- ・教会の指導的立場につくことはできないだろう。

教会にとって、離婚経験者を教会の共同体に迎え入れることは、大変デリケートな問題です。罪が関わっているなら、しっかりとした悔い改めに導くことが大切です。そして、神の赦しを確認しましょう。また、別れた相手を赦すようにも導くことが大切です。そうしないと離婚の問題をずっと引きずることになります。そして、他の教会員と全く同等に心から迎え入れましょう。

### 子連れで結婚した家庭（ステップ・ファミリー、ブレンディド・ファミリー）

配偶者が死別したり、離婚した後、子どもをつれて再婚する人がますます増えています。しかし、教会はこの事実鈍感で、彼らの状況やニーズに応えてきていないのではないのでしょうか。

シンデレラ、白雪姫、ヘンゼルとグレーテルなどの童話は、継母は恐ろしい女性として描かれています。しかし、天の父なる神はひとり子イエスを、継父であるヨセフのもとに送りました。ですから、継父母がいる家庭は、最初から機能不全であると考えられることはまちがいです。

### 喪失

すべてのステップファミリーは、「喪失」から誕生します。「ステップ」という言葉は古い英語の「bereaved」（後に残された、肉親に先立たれた）に由来しています。ステップファミリーが「喪失」から始まるのが、最初の結婚のできる家庭と大きく異なっています。親の死や結婚の死から、家庭が始まるのです。死は深く悲しまれなければなりません。

教会は、ステップファミリーが喪失の悲しみを通ることを支えましょう。喪失に向き合い、喪失を通り抜ける時をあげましょう。多くの場合、父親は短い悲しみの期間の後に再婚することがあっても、子どもたちは悲しみの中にとどまっていることがあります。子どもたちは、心の準備ができていないうちに親が再婚すると、混乱や怒りを感じます。子どもたちにとっては、新しい親をすぐに好きになることは、なくした親への裏切りのように感じるのです。

### 成長過程

ステップファミリーは、自分たちのアイデンティティや役割をすぐに理解すること

は困難です。ステップファミリーには固有の強みがあり、内在する問題があるのです。成長過程の中でも、特に再婚初期の数年間には混乱と痛みが伴いますので、教会はサポートする必要があります。

1. 空想 両親は自分たちの愛が過去の喪失を補うことを空想します。子どもたちは過去の家庭を空想します。
2. 同化 家族のメンバーは自分の空想から抜け出て、失望と混乱を経験します。ねたみ、敵意、不満、拒絶を経験します。
3. 気づき 家族のメンバーは互いや家庭生活への失望を認め、助けを求めるようになります。
4. 前進 正直な感情が分かち合われます。よく衝突が起こります。
5. 行動 両親は自分の役割と関係を積極的に模索します。過去と現在のやり方を評価します。血のつながりのない子どもたちとの関係を築き始めます。
6. 接触 夫婦は親しさが増し、家族は正直に自分の感情を伝えることができるようになります。両親は家庭の中での自分たちの役割が明確になります。
7. 解決 家族が安定し、強いきづなでつながります。新しい家庭の歴史が始まり、子どもたちは自由に自分のアイデンティティを発達させます。

これらの過程を通過するには、早くて4年、普通で7年かかります。教会はステップファミリーが安定した家庭を築くためには時間がかかることを教え、共に歩むことが大切です。

## 教会のサポート

夫婦は普通の結婚に伴う適応だけでなく、たくさんのストレスに直面します。子どものニーズや性格、経済的必要、前の結婚に伴う法律的な事柄、前の結婚が失敗したことの罪意識など。教会はこういったことを助けることができます。

離婚を経験した家族に対して、教会は「離婚回復ワークショップ」を提供できます。離婚や死別から来る罪意識、怒り、自尊心の低下などの問題が解決されていないと、再婚における問題を引き起こします。ですから、まず前の結婚に関する感情や問題を解決する必要があります。

再婚には強みもあります。最初の結婚に比べて、夫婦はより現実的に物事を考えます。同じ失敗を繰り返さないために、努力もします。教会が提供できる特に重要なテーマは、よいコミュニケーション、コンフリクトマネジメント、決断の分かち合い、経済、しつけのあり方などです。

## 第10章 機能不全家庭（ディスファンクショナル・ファミリー）

問題のある家庭は、子どもたちに大きな影響を与えます。暴力がふるわれる家庭で育った子どもたちは、暴力的になったり、抑うつ的になる傾向が見られます。その子どもたち自身が親になった時に、同じように暴力をふるう傾向もあります。

親がアルコール中毒だった人は、人を信頼したり、感情をコントロールすることに問題を感じているという調査結果もあります。性的虐待を受けた子どもは、虐待を与えた人との関係が近いほど、影響も長引く傾向があります。

### 自制不可能

依存症の特徴は、コントロールを失うことです。アルコール依存症の場合、飲むことを止めることができないだけでなく、飲み始めると何が起こるのか予測できません。かんしゃくを起こしたり、食べることや仕事を止めることができなくなる場合もあります。自分では止めることができないとは認めません。

虐待する人や依存症の人は、間違った行動をした後、謝ったり、後悔したり、悲しんだりします。しかし、同じことを繰り返すのです。家族は、「もうしません」という言葉を、悔い改めの言葉として受け取ってはいけません。

### 他人のせいにする

虐待したりや依存したりする人たちは、自分の問題行動を他人のせいにします。ある家族の妻がうつ病になり、子どもがおねしょの問題を起こすようになっている場合、本当の問題は夫がアルコール依存症である場合もあります。しかし、夫は自分が一番の原因になっていることを認めません。カウンセラーは、家族の中で一番の原因がどこにあるかを見極めないと、問題の解決に至らないこととなります。

### 包み隠す

問題がある家庭は、家族の誰もが家庭内で起こっていることを隠す傾向があります。問題を過小評価したり、否定したりします。包み隠す背後には、恥とフラストレーションがあります。問題を止めることができないで、それが当然のように考えることもあります。

事実を知るためには、家族全員、特に小さい子どもたちの話を注意深く聞く必要が

あります。ただし、このことは慎重にしないと、子どもが家族から厳しい罰を受けることにもなりかねません。

## 共依存

依存症（アルコール、仕事、怒りなど）の人は、特定の行為をコントロールできずに、強迫的に行ってしまいます。その周りにいる家族の生活は、問題行動を中心にして組み立てられるようになります。機能不全家庭の子どもたちは、自分たちの生活は、問題を持った親の予測できない、無責任な行動によって支配されていることを学びます。問題行動が、家族の時間とエネルギーを奪います。こうして、自分の生活が他の人によってコントロールされるという共依存が生じるのです。

共依存は、学習された無力感でもあります。来る日も来る日も、子どもたちは自分ではどうしようもできない事態に左右されるのです。共依存は個人の発達を妨げます。子どもたちのニーズは、直接満たされることはありません。共依存の人は、本当の自分という感覚や自尊心が発達しにくいのです。

その結果、自己概念は他の人がどう自分を見るかということによって強く影響されるのです。たとえば、性的虐待を受けた人がセックス中毒になりやすい傾向があります。それは、性的関係を持つ他の人から、自分という感覚を得ることができるからです。

自分の空虚感を埋めるために、過食やアルコール、セックス、仕事にのめりこんで、別の人になろうとするのです。しかし、強迫的行為によっては、決して満たされないのです。人の存在の飢え乾きは、神によってしか満たされることができないのです。

## 同一化

子どもは成長過程で、自分を同一視できるモデルを求めます。普通は、一番つながりの強い両親を同一視します。子どもたちはその影響を意識していませんし、逆に抵抗する場合もありますが、同一化したモデルは大きな影響を与えます。

機能不全家庭で育った人に、自分の父親のもっとも悪い特徴を挙げてもらいます。その後で、それぞれの特徴が自分にも当てはまるかどうかを尋ねます。そうするとほとんどの場合、自分がいかに父親と似ているかがわかって驚きます。子どもは親がどのような人であれ、同一化して性格形成に多大な影響を受けているのです。

## 学習された対処法

子どもたちは家庭状況に反応しながら、自分の感情や行動を身につけます。機能不



全家庭で学習される対処法は、「感じるな、話すな、信用するな」という規則です。そうすることによって、臭いものにふたをし、痛みや恥を感じないようにしようとするのです。対処法は個人差があります。家族の恥を乗り越え、家族の名を守るために、人より秀でた者になる場合もあれば、世捨て人のようになる場合もあります。

## 回復過程を教える

機能不全家庭で育った人は、自分でも気づかない怒りや恥をかかえたまま、自分の家庭でも同じ問題を起こす傾向があります。自分が育った家庭で起こったことを処理できなければ、変わることはむずかしいのです。回復過程は以下のように考えられています。

### 1. 自分が育った背景を省み、その影響を知る

機能不全家庭で育った多くの人が、自分の子ども時代の経験を忘れようとしています。そのため、自分にどんな影響があるかに気づかず、取り組もうともしないこともあります。過去はとても心の傷になっているので、サポートなしに掘り返すことは勧められません。

### 2. 未解決の問題を両親と共に取り扱う

両親に対して怒りや痛みといった否定的な気持ちを抱いたままの人がいます。あるいは、両親に対して罪や責任を感じて共依存で結びついている場合もあります。アダルトチルドレンは、いかに親を許し、不健全な情緒的つながりを切るかを学ぶ必要があります。そして、両親と新しく健全な関係の築き方を学ぶことも必要です。

### 3. 子ども時代の経験から生じる問題に対処する

ある人たちは依存症から解放される必要があります。また別の人の場合は、ウツや罪責感、不安がどこから生じたのかを知り、情緒的に健全にされる道を開くことが必要です。

### 4. 悲しむ過程を通過する

回復のためには、子ども時代の苦しみや喪失に向き合うことが必要です。過去に向き合った最初の段階は、落ち込みます。その後、悲しみのトンネルを通過し、最後は過去を受容することによって解放されます。

### 5. 神を信頼する

個人の回復は霊的な力によらなければできません。アルコール中毒から回復するための12ステップのプログラムにも、神に信頼することが書かれています。

## 教会の注意事項

1. 教会全体が問題家庭と共依存の関係にならないように注意します。
2. 教会が中途半端な助けをすることによって、家族が自分たちの問題に向き合うことを遅れさせないように気をつけます。
3. 教会が関わっている子どもの家庭が、問題を抱えているかどうかを判断します。問題ある家庭の子どもが、必ずしも問題を起こすとは限りません。静かで目立たないことがよくあります。頻繁に欠席したり、遅刻することもあります。
4. 精神科医、カウンセラー、治療センターとの連携が大切になる場合があります。
5. 教会がサポートグループを始めると、地域に対して大きな伝道の機会にもなります。12ステップの回復プログラムは、キリスト教が背景にありますから、教会でおこなうと効果があります。実際に行われているサポートグループの例としては、ステップファミリー、摂食障害、不妊、障がい者、性的虐待被害者、エイズと HIV、がん患者、夫や妻を亡くした人、薬物依存、アルコール依存、離婚経験者、共依存、失業、片親家庭、未婚の妊娠など。必要に応じて、どのようなサポートグループも可能です。

## 共依存家庭のメンバーに対して

共依存の家庭において、たとえ問題の当人が変わらなくても、家族が変わることによって状況を改善することができます。

1. 問題の当人を変えようとするのを止めます。「まずこの人が変わらなければ幸せは訪れない」という考え方を止めます。
2. 問題の当人と間の強い感情のつながりを切ります。
3. 問題の当人を中心にして他の家族が動くことを止めます。
4. 家族がお互いに感じ、話し、信頼することを始めます。

このようなステップを通る時、家族は洞穴から抜け出て、自分たち自身の人生を取り戻したように感じるでしょう。

## カウンセリングミニストリー

カウンセリングを提供することは、容易なことではありません。専門技能と多くの時間が必要です。

もっとも一般的なカウンセリングは、牧師がおこなうものです。しかし、実際は、牧師はほとんどカウンセリングについて学んだり、訓練を受けずにおこなっている場合が多いようです。問題の相談を受けた場合、相手の話を聞き、適切な聖書箇所を読み、祈ることが一般的でしょう。しかし、それだけでは対処しきれないケースが増え

てきています。

教会でカウンセリングセンターを開設できることが理想です。しかし、教会の指針に合うクリスチャンのカウンセラーを見つけ、経済的に支えることは容易なことではありません。

今後、信徒がおこなうカウンセリングが増加することが予想されます。教会は信徒の有志にカウンセリングの訓練をします。信徒カウンセラーは、牧師やプロのカウンセラーの代理ではなく、比較的やさしいケースを担当してもらいます。

信徒カウンセリングが成功するためには、カウンセラーの選択と訓練が大切です。カウンセラーに選ばれる人は、安定している成熟したクリスチャンであることが必要です。そして、他の人を受容し、聞き、自己開示するといった対人関係能力も大切です。人間に強い関心があり、安定した家庭生活をし、人生経験が豊かで、人を助けることが好きな人であるべきです。霊的賜物としては、励まし、知恵、憐れみ、いやしなどの賜物が与えられている人が望ましいでしょう。さらに、学校や地域などですでにカウンセリングの訓練や実践をしている人も望ましいでしょう。

訓練は、専門家におこなってもらう必要があります。50時間は必要です。カウンセリングの仕方を学び、実際のスキル訓練が必要です。特別な問題、結婚や家庭の問題、霊的問題について理解することも大切です。また、どういう時に専門家の助けが必要かを見極めることができるようになることも必要です。

信徒カウンセラーは、訓練を受け、実際のカウンセリングを始めた後、継続的な指導を受けることが必要です。経験のあるカウンセラーが、信徒カウンセラーと個人的に、あるいはグループとして定期的に会って、カウンセリングミニストリーや個人生活について話をします。これがないと、信徒カウンセラーの向上は期待できません。

しかし、プロのカウンセラーにも危険があるように、信徒カウンセラーにも危険性があります。相談に来た人に、単純過ぎて非現実的なアドバイスを与えることがあります。あるいは、コントロールしたり、守秘義務を守らなかったり、感情的に巻き込まれてしまって燃え尽きることもあり得ます。

しかし、教会が何もしないのは、問題が大きくなるのを放置しているようなものです。教会は神が望まれるいやしの共同体になることによって、信仰が新たにされ、リバイバルのきっかけにもなるでしょう。

## 第11章 その他のテーマ

この章では、今までの章で取り上げることができなかったテーマを取り上げます。高齢者へのミニストリー、世代を超えたミニストリー、ファミリーキャンプ、メディアリテラシーについてごいっしょに考えてみましょう。

### 高齢者へのミニストリー

日本全体が高齢化しています。教会も高齢化しています。高齢者へのミニストリーは今後ますます重要なテーマになっていくでしょう。

ファミリーライフサイクルの章で挙げたような問題に取り組む必要があります。

- ・退職後の適応を助ける
- ・年を取る過程の理解を助ける
- ・健康を維持する方法を教える
- ・健康上の理由から、礼拝に出席できない人を助ける

高齢者は人生経験が豊富で、自由時間がたくさんあり、比較的経済に余裕のある人がたくさんいます。ですから、高齢者の賜物が活かされ、神と人のために用いられるように整えられ、用いられる場を用意することが教会の大切な課題です。

### 世代を超えたミニストリー（インタージェネレーショナル・ミニストリー）

今までの教会のプログラムは、特定の世代を対象にしたものがほとんどでした。しかし、これからは世代を超えたミニストリーも大切になっていくでしょう。このミニストリーを導く人は、体験・発見学習の仕方を理解したファシリテーターとしてのトレーニングが必要です。

#### 世代を超えたミニストリーの特徴

1. 計画された学習です。
2. 2つ以上の世代が参加します。
3. 世代を超えた相互のやり取りがあります。たとえば、みんなで映画を観るだけなら相互のやり取りはありません。しかし、映画を観た後に、話し合いをすると相互の

やり取りになります。

たとえば、「神にある喜び」を目的にしたプログラムでは、次のようなことが可能です。最初に打ち解けあうゲームをします。次に、自己紹介ゲームをして互いに知り合います。そして、いくつかの小グループに分かれ、各グループに喜びを表す場面の聖句を渡して、それを劇にしてもらいます。また、各グループでその喜びを表す旗を作ってもらいます。劇と旗を全体の前で発表します。

その後、ラベルをはがしたジュースを用意し、そのジュースに神の喜びの要素をみんなで考えて、「感謝」、「祈り」など書いたラベルをはります。そのジュースをジュースボールに入れて、みんなでジュースとお菓子でお祝いをします。最後は、全員が円になって、賛美し、祈りをもって終わります。

もう一つ別の例として、「信仰のヒーロー」プログラムを簡単に紹介します。各チームはそれぞれ自分たちの「信仰のヒーロー」を選びます。そしてそのヒーローについて調べ、DVDや劇などを用いて全体に発表します。各チームはチームの旗やポスター、歌を作ります。また、自分たちのヒーローの生き方を表す暗唱聖句を選んで覚え、全体の発表の時に発表します。

#### 世代を超えたミニストリーの利点

1. 小さい子どもたちも含めて、すべての人が対等に尊重され、受け入れられます。
2. 家族のきずなが強められます。ここでの学習の目的が家族に関したものであろうとなかろうと、家族の関係は強められます。ここで経験される他の人への配慮、喜び、分かち合いなどといった態度は、それぞれの家庭にも影響を与えます。そして各家庭のメンバーは、ここでの活動を通して意義深い関わりの機会があり、家族関係を強めます。
3. 理解が深まります。この活動を通して、他の世代の特徴、ニーズ、期待、感情、不安などを発見し、理解を深めることができます。
4. 教会全体に新しい命と一致が生じます。

#### ファミリーキャンプ

キャンプは、生活を豊かにします。そして基本に戻らせてくれます。神の言葉、創造、キリストの体、そして家庭です。日常生活から離れて、豊かな自然環境でおこなわれます。ペースはゆっくりになり、知覚は鋭くなります。教会や家庭では、家族との接触は部分的になりがちですが、ファミリーキャンプでは終始、共に過ごすことに

なります。キャンプでは、生活は単純で基本に戻ります。このようにファミリーキャンプでは、世代間を越えたよき交流ができます。

ファミリーキャンプによって、教会も強められます。世代を超えた関係が強化されます。教会は、神の家族であることを体験できます。また、ファミリーキャンプはよい伝道の間にもなります。普段は教会の礼拝に出席しない人が、家族に誘われてキャンプに参加し、楽しく打ち解けた雰囲気の中で、福音が効果的に伝えられます。

一般的なファミリーキャンプは、普通のキャンプに家族で参加するものです。霊的なプログラムは講壇から語られるメッセージが中心です。家族は、キャンプ場の建物やテントにいっしょに宿泊します。スポーツや工作などのレクリエーションもいくらか計画されています。しかし、家族のための学習経験やスキル訓練などはおこなわれません。

理想的なファミリーキャンプは、本書でとりあげたようなプログラムをキャンプを用いておこなうことです。プログラムによっては、各家庭にカウンセラーが一名つきます。プログラムの進行を助けたり、必要があれば家族関係をよくするための助けをします。効果的なファミリーキャンプをおこなうためには、家族ごとに宿泊できる施設が必要です。

さまざまなプログラムが可能ですが、一例として父親トレーニングプログラムを紹介します。

7-8時 父親のトレーニング講座

8-9時 家族で食事（その日の過ごし方をいっしょに考える）

9-15時 アドベンチャー（家族でハイキング、釣り、小旅行など）

15-17時 準備時間（一つの家が自分の家庭ともう一つの家のために夕食と  
ディナーの準備をする）

17-19時 いっしょの時間（2家族がいっしょに夕食とディナーの時を持つ）

19-20時 キャンプファイヤー、子どもたち就寝

20-22時 両親のための学習時間（メッセージ、スモールグループ聖書研究など）

## メディアリテラシー

もはやテレビとインターネットのない生活は考えられないほど、テレビ、インターネットはすっかり私たちの生活の一部となっています。平均的な家庭でも1日3時間以上テレビを観たりやネットに接続しています。多くの人たちが意識していませんが、テレビやネットが私たちに及ぼしている影響は絶大です。テレビやネットは家族の1

員かそれ以上の影響を与えているのです。テレビとネットの影響をよく理解して、正しく用いることがとても重要です。

### テレビとネットの特徴

1. テレビやネットを長い時間見れば見るほど、テレビやネットに影響されることが調査結果として報告されています。テレビやネットでの取りあげ方がどれほど不正確であれ、ゆがんでいても、テレビやネットの影響を受けます。子どもが小さいほど、人生経験が少ないだけに、テレビやネットを批判的に見ることができずに大きな影響を受けます。登場人物の真似をし、好み、考え方などに影響を受けます。

2. テレビやDVDのベビーシッターは危険です。小さい子どもたちはテレビやDVDを静かに見えています。忙しい親は喜んでテレビにベビーシッターをしてもらいます。しかし、その結果、大変な問題が起こってきています。言語発達の遅れ、対人関係能力の遅れ、多動、注意散漫、ADHDなど。5歳までは基本的な人格が形成される特に重要な時期です。テレビやDVDに子守をまかせることは危険です。

3. 家庭生活がしっかりしている子どもほど、テレビやネットから受ける影響が少ない傾向があります。反対に、親が留守がちだったり、無関心だったり、不安定だったりすると、感情的、倫理的にテレビやネットの影響を受けやすくなります。

4. 多くの人は、テレビやネットでのイメージを現実としてとらえます。そのため、テレビやネットは人々の人間関係、道徳的・倫理的価値観、家族のあり方、ライフスタイルに影響を与えます。人々はテレビやネットに登場する人物をただ真似るだけでなく、「現実」としてとらえるのです。

5. 中立公平な報道などありえません。多くの人が、ニュースの報道は事実であると受け取っています。しかし、事実をありのまま伝えることなど不可能です。報道機関が知りえることの限界、編集の過程での取捨選択、取り上げ方など、さまざまな限界とフィルターを通ったものが報道されているのです。ニュースに取り上げないということも、大きな価値判断がそこでなされています。

6. 私たちは生まれながらに、テレビやネットの商業にさらされています。あらゆる物とサービスの広告爆撃にあっています。そこで語られているメッセージはただ一つ、「これがあればあなたは幸せになれるですよ」ということです。「もっと買って！もっと消費しなさい！」という快樂主義、物質主義に洗脳させられているのです。

### 対策

1. キリスト教の価値観を正しく教えます。以下の聖句を参考にしてください。

ローマ 12:2 「この世と調子を合わせてはいけません。・・・」

出エジプト 20:17 「あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

ヘブル 13:5 「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足なさい。」

2. テレビやネット以外の楽しい時間をつくります。

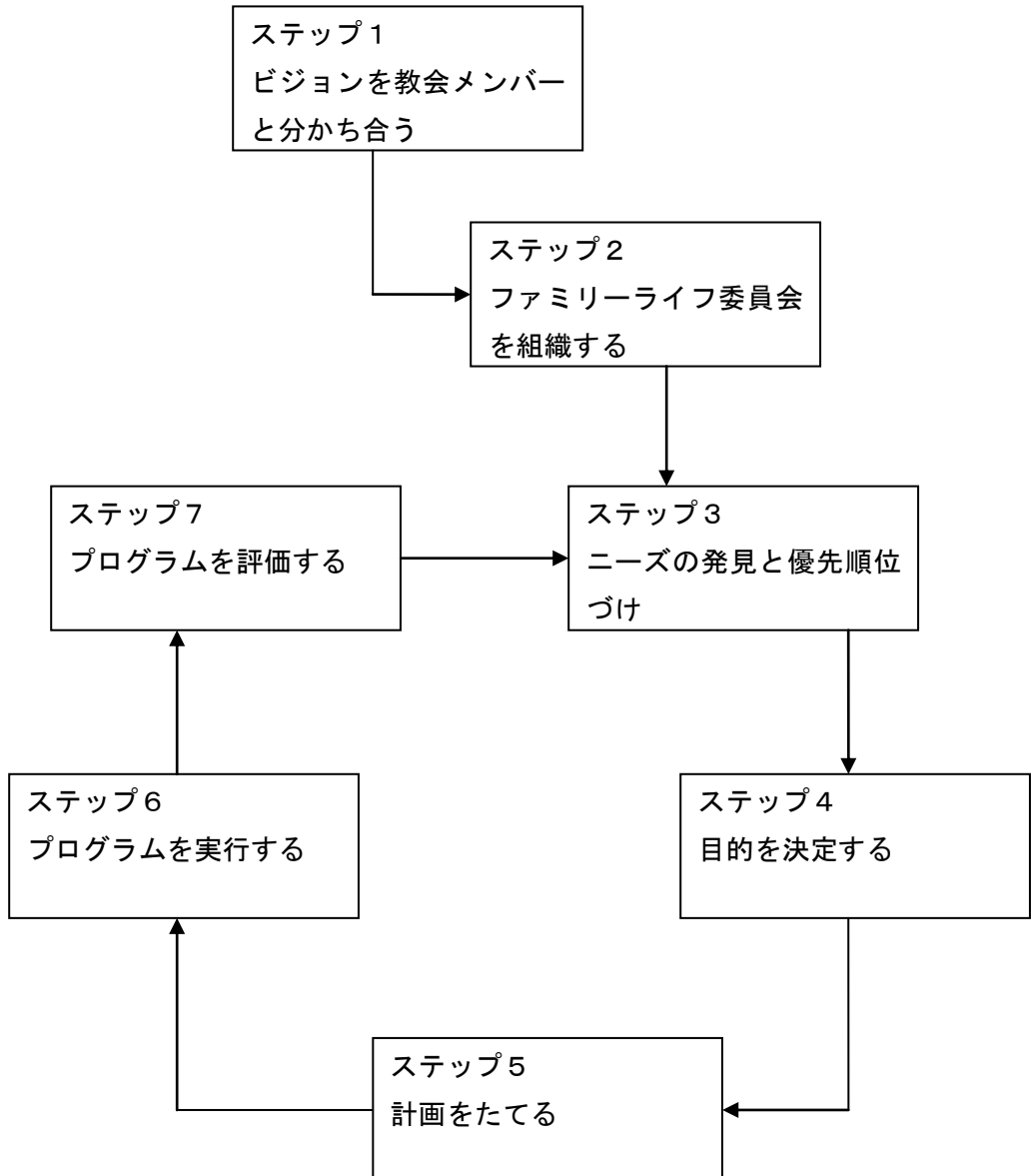
3. 親はできるだけ子どもといっしょにテレビやネットを見るようにしましょう。そして感想を話すようにします。そうすることによって、テレビやネットだけの価値観でなく、親の価値観を子どもに伝えることができます。子どもが大きくなってきたら、番組の背後にある価値観などを話し合うようにすると、批判的に見られるようになっていきます。

4. 番組が作られる過程を知ることも大切です。そのために自分たちで番組をつくってみることもよいでしょう。



## 第 12 章 ファミリーミニストリーを実行する 7 ステップ

ファミリーミニストリーを教会内で実行するには、以下の 7 つのステップが考えられます。



## ステップ1 ビジョンを教会メンバーと分かち合う

最初のステップは、教会のメンバーに関心を持ってもらうことです。どんなミニストリーも、神様から思いを与えられた個人から始まります。そのビジョンを分かち合っていく中で、教会全体としてのビジョンとなり、働きとなっていきます。

たとえば、説教の中で今日の家庭の問題を取り上げることで関心が高まるでしょう。週報や月報に、家庭の必要に関する短い記事をのせてもよいでしょう。教会学校も、家庭への関心を高める場としてふさわしい所です。

## ステップ2 ファミリーライフ委員会を組織する

教会内で関心が高まってきたら、ファミリーライフ委員会を設置する時です。委員の人数や性質は教会ごとで異なります。委員会を組織しない場合は、牧師や有志によってステップ3以降のことをおこなってください。

委員になる人は、自分の家庭に深くかかわっている人で、他の家庭も助けたいという思いのある人がふさわしいでしょう。教会の中ですでにたくさんの責任がある人は、避けましょう。委員に選ばれた人は、自分の家族と十分に時間を過ごしてもらいたいと思います。そうすることによって、よい家庭のモデルともなってほしいのです。

もしできるなら、委員の中に、カウンセリングの経験のある人、学校の教師、ソーシャルワーカー、その他、人に関心のある専門家に入ってもらいと、大きな助けになります。

この委員会はよいバランスが必要です。さまざまな関心を持っている人を代表し、次章で説明するファミリーライフサイクルのいろいろなステージを代表する人が委員になってほしいと思います。たとえば、子どものいない若い夫婦、子どものいる30代の夫婦、中年の夫婦、高齢の夫婦、夫を亡くした婦人、離婚経験者、独身者などです。こういった幅の広い興味と関心を持った人たちによって、バランスのとれたファミリーミニストリーを計画することができるのです。

ファミリーライフ委員会が結成されたなら、委員が新しい責任を果たせるためにトレーニングを計画しましょう。委員会で、個人的な学びのための図書リストを作成し、個人や委員会としての学びを始めましょう。また委員会は、ファミリーミニストリーの聖書的基礎を文章でまとめるとよいでしょう。

## ステップ3 ニーズの発見と優先順位づけ

ファミリーライフ委員会は、教会にかかわっている家庭のニーズを知らなければなりません。家庭のニーズを知るには、4つの基本的な方法があります。

第1の方法は、委員会の中でブレインストーミングをおこなうことです。まず委員会は、教会内にどのようなタイプの家庭が存在するのか書き出してください。次に、自分たちの経験、観察、研究などを用いて、各々のタイプの家庭に考えられるあらゆるニーズを挙げます。この作業を、すべてのタイプの家庭が終わるまでくりかえします。

第2の方法は、雑誌、新聞、本や国勢調査などを読んで、そこから家庭のニーズを知ることです。こういった媒体を通して、私たちは家庭で何が起きているのかを大まかに知ることができます。こういった作業によって、教会内での家庭のニーズにさらに敏感になるでしょう。

第3の方法は、インタビューです。委員会は、さまざまなタイプの家庭を代表する人を招きます。そして、彼らに自分たちのニーズを挙げてもらうようにします。この方法の長所は、インタビューされる人とする人の間で相互の人格的な交流ができることです。たえずフィードバックできますから、質問して内容をより正確にしたり、重要な点はさらに詳しく尋ねることができます。この方法の短所は、インタビューされる人の中には、自分の正直な感情を面と向かって表すことをためらう人がいることです。

第4の方法は、アンケートに答えてもらうことです。上記の3つの方法を用いて集めた情報に基づいて、質問を作ることができます。各々の教会の実情に合ったアンケート項目を考えてください。

家庭のニーズについての十分な情報が集まったら、委員会は優先順位を考えます。一度に全員にすべてのことを行うことは、不可能です。優先順位をつける基準は、緊急性、教会の目的と合っているか、必要な人材や施設があるか、財政的に可能であるかなどが考えられます。

#### ステップ4 目的を決定する

教会内の家庭のニーズを特定し、優先順位をつけた後にすべきことは、目的を決定することです。目的によって、ファミリーミニストリーの進むべき方向が決定されます。たとえば、あなたの教会の家庭内に「結婚生活でのよいコミュニケーションを持つ方法」というニーズがあり、その優先順位が高いと判断したとします。その場合、「夫婦が結婚生活でよいコミュニケーションを持てるようにすること」が、目的となります。

## ステップ5 計画をたてる

次のステップは、目的を達成するための計画をたてることです。計画では、実行可能な活動や経験を考えます。具体的な計画については、本書の後の章を参考にしてください。計画をたてる場合は、以下の点を考慮しましょう。

1. 対象となる人やグループを決定する
2. 具体的に何を達成したいかを決定する
3. 形式を決定する。最適のグループの分け方など
4. 場所と日時を決定する
5. プログラムを決定する。どのような活動(アクティビティ)や経験を入れるか
6. リードしてくれる人を決める。使用可能な資料・機材を用意する
7. 募集方法を決定する

## ステップ6 プログラムを実行する

たてられた計画に基づいて、プログラムを実行します。導く人は委員会のメンバーである場合もあれば、外部講師の場合もあるでしょう。いずれの場合であっても、委員会のメンバーは全体を見渡して、プログラムがスムーズに進むように助けます。

## ステップ7 プログラムを評価する

各プログラムが終わった時点で、参加者に評価してもらいます。また、委員会による評価も大切です。評価は、次回のプログラムをよりよいものにするためにおこなわれます。以下の点を評価するとよいでしょう。

1. 具体的な目標がどの程度達成されたか
2. 特に良かった点
3. 改善するとさらによくなると思う点
4. 次回以降に取り上げてほしいテーマ、ニーズ

家庭生活の質が向上したかどうかは、短期的に評価することは困難です。ですから、プログラムを継続しつつ、3年から5年かけて変化を見ていく必要があります。

## あとがき

本書を読まれた方は、「なんだか骨だけで肉付きの少ない本だなあ」と感じられたかもしれません。体験談も事例も聖書の解説もあまり書かれていません。ファミリーミニストリー全体の見取り図だけをまとめました。なぜかと言いますと、ファミリーミニストリーはとても膨大な分野で、私の手元にある資料に目を通すだけでも、いつ終わるかわかりません。しかし、現在の日本の家庭が置かれている状況を考えますと、そんなに待ってられません。緊急性の高いミニストリーだと思いました。ですから、とりあえず全体の見取り図だけでも提供したいと考えたのです。

どうかこの本を読まれたお一人一人が、それぞれの家庭や教会で、実践の一步を踏み出されることを心から期待しています。また機会がありましたら、具体的なトレーニング方法やプログラムの紹介もしたいと考えています。

## 参考文献

### <結婚・子育て一般>

- 柿谷正期『しあわせな夫婦になるために』いのちのことば社 1988年。
- 柏木恵子、大野祥子、平山順子『家族心理学への招待 今、日本の家族は？家族の未来は？』ミネルヴァ書房、2006年。
- キム・ソンムク『お父さん、愛しています』Duranno 2007年。
- 小林碧『女性であることの喜び』いのちのことば社 1990年。
- ジェームズ・ドブソン著『家族のために・・・知って欲しいこと』ファミリー・フォーカス・ジャパン 2002年。
- ジェームズ・ドブソン『幸福な家庭セミナー』ファミリー・フォーカス・ジャパン ビデオ。
- ジェームズ・ドブソン『ユース・セミナー』ファミリー・フォーカス・ジャパン ビデオ。
- ジョン・M・ドレッシャー著 岡田信子、高橋博子訳『若い母親に贈る8章』いのちのことば社 2001年。
- ジョン・M・ドレッシャー著 工藤信夫訳『小学生の子をもつ親のための6章』いのちのことば社 1997年。
- スティーブン・R・コヴィー著 ジェームズ・スキナー、川西茂訳『ファミリー 7つの習慣 家族実践編』上、下 キングベアー出版 1998年。
- 玉井敦子著 玉井邦美監修『子育てのストレスを喜びへ』CS成長センター 2003年。
- 玉木功著『家族が仲良くなるひけつ』クリスチャン新聞 2001年。
- 日本同盟基督教団教会教育部編『聖書が教えている家庭生活・社会生活』日本同盟基督教団出版局、2005年。
- 平山正実、原喜美、湊晶子、神津喜代子『ともに生きる家族と信仰の継承』いのちのことば社 2001年。
- 松阪政広『家族の危機管理 本当に大切な人を大切にできるか』CS成長センター 2001年。

### <結婚・夫婦>

- 石井希尚『愚かな女は騒がしい 賢い男は珍しい』いのちのことば社 2003年。
- 尾山令仁『新版 結婚の備え』いのちのことば社 1990年。
- 上沼昌雄『夫たちよ、妻の話を聞こう』いのちのことば社 2003年。

ジョナサン・ベネディクト著 『ふたりのために』 ファミリー・フォーカス・ジャパン  
2002年。

ジョン・M・ドレッシャー、ベティ・ドレッシャー著 『若い夫婦のための10章』 いのちのことば社 1994年。

千代崎秀雄 『祝福あふれる結婚』 いのちのことば社 1997年。

デーヴィッド&クロード・アープ 『結婚生活のセカンドハーフ — 夫婦が再び二人きりになる日』 いのちのことば社 1999年。

朴永基 『増補改定版 幸福な家庭生活』 いのちのことば社 2003年。

パク・スウン 『恋愛の品格 聖書的、積極的に愛しあおう』 Duranno、2008年。文化的違いは少々あるが、結婚を考えている若者にお薦め。

ハリス、ジョシュア著、原田治子訳 『聖書が教える結婚講座』 ホームスクーリング・ビジョン株式会社、2006年。

ポール・スティーヴンス著、唄野隆訳 『互いに語り、ともに主に向かう—夫婦の霊的友情を育てる10のポイント』 いのちのことば社、2007年。

唄野隆 『聖書に見る結婚・夫婦・家庭』 いのちのことば社 1994年。

水野健 『夫と妻のしあわせづくり』 いのちのことば社 2005年。

平野耕一、平野洋子 『わかりあう夫婦となるために』 いのちのことば社 1993年。

フォルカー&フェリタス・レーナルト著 たかおまゆみ訳 『二人が向かい合うために』 新教出版社 2001年。

### <結婚カウンセリング>

キャンパス・クルセード・フォー・クライスト 『ザ・マリッジ・マニュアル』 (ファミリーライフ・カップルズ・セミナー) 1994年。

D.A.シンプソン著、ピーター・クリフト監修、斯波光正訳編 『結婚する2人のためのカウンセリングノート』 いのちのことば社、1994年。

水野健 『結婚を考えている二人のために』 いのちのことば社 2001年。

### <コミュニケーション>

ゲラリー・スモーリー、ジョン・トレント著 尾山謙仁訳 『愛のことば』 ファミリーネットワーク 2002年。

### <子育て>

マーティン・セリグマン、カレン・レイビック、リサ・ジェイコックス、ジェーン・

- ギラム著、枝廣淳子訳『つよい子を育てる ころのワクチン—メゲない、キレない、ウツにならない ABC 思考法』ダイヤモンド社、2003年。
- ギルクライスト、ダン著、辻潤訳『聖書が教える親の道』ホームスクーリング・ビジョン株式会社、2004年。
- E. H. ゴールキィ著 近藤千恵、広田実訳『クリスチャンのための親業ABC』新教出版社 1985年。
- ジェームズ・ドブソン著 金子登志江訳『新・思い切ってしつけましょう』ファミリー・フォーカス・ジャパン
- バーバラ・バウマン著 龍野さおり訳『見つけた子育てのよろこび』ライフミニストリーズ 2002年。
- 藤倉恒雄『心を見つめる教育—思春期の子をもつ親へのメッセージ』新教出版社 1989年。
- タイラー、ザン著、辻潤訳『子どもの可能性を伸ばす7つの秘訣』ホームスクーリング・ビジョン株式会社、2006年。
- トリップ、テッド著、中嶋典子訳『聖書が教える親と子のコミュニケーション』ホームスクーリング・ビジョン株式会社、2005年。
- フューゲート、J. リチャード著『チャイルド・トレーニング』ホームスクーリング・ビジョン株式会社、2005年。
- プリオロ、ルー著、辻潤訳『神の知恵と親の情熱—聖書のことばが子どもを変える』ホームスクーリング・ビジョン株式会社、2006年。
- プリオロ、ルー著、山口勝政、山口衣子訳『キレル子どもたち』ホームスクーリング・ビジョン株式会社、2006年。

### <信仰継承>

- J.H. ウェスターホフ著 茂純子、西尾操訳『親と子の信仰生活』日本基督教団出版局 1993年。
- ジョン・M・ドレッシャー著 福井誠訳『子どもに信仰を伝えるための20章』CS 成長センター 2000年。

### <性教育>

- 富永囀比古『泣きながら夜を過ごす人にも』キリスト新聞社 2005年。
- 長谷川はるひ、長谷川いのり『のんちゃん&おかあさん 性について話そう』あるむ、2004年。



ハリス、ジョジュア著、原田治子訳『誘惑に負けないために』ホームスクーリング・ビジョン株式会社、2005年。

ファミリー・フォーカス・ジャパン 『Sex,その嘘と真実』ビデオ  
前島常郎編 『性同一性障害 QアンドA—クリスチャンとして考える—』ファミリー・フォーカス・ジャパン、2005年。

水谷潔『チョット聞けない 男女のお・は・な・し』いのちのことば社、2006年。

水谷潔『ヤンキー牧師の“必笑”恋愛塾』いのちのことば社、2008年。

### <独身>

カーセン、ギエン著、松代幸太郎訳『シングルライフを最高に生きる』いのちのことば社、2006年。

ザイエンガ、カリン著 若松君子訳『ひとりぼっちで明けない夜に』いのちのことば社 2003年。

### <高齢者>

デイヴィッド・マッケンナ著 田中邦夫、柴崎由良訳『親が子の手を求めるとき』いのちのことば社 1999年。

鍋谷堯爾著『老いと死を考える』いのちのことば社 1995年。

鍋谷堯爾、森優著『老いること、死ぬこと』いのちのことば社 2003年。

### <メディアリテラシー>

菅谷明子著『メディア・リテラシー』岩波新書(新赤版 680)、岩波書店 2000年。

### <その他>

波多野誼余夫、大浦容子、大島純編著『学習科学』放送大学教育振興会、2004年。

### <英文参考文献>

Ambrose, Dub, and Walt Mueller. 1988. *Ministry to Families with Teenagers*. Loveland: Group Books.

Anthony, Michael J. ed. 2001. *Introducing Christian Education: Foundations for the Twenty-first Century*. Grand Rapids, Baker Book House Company.

Balswick, Jack O., and Judith K. Balswick. 2007. *The Family: a Christian Perspective on the contemporary home*, 3rd ed. Grand Rapids, Baker Academic.

- Clark, Robert E., Lin Johnson, and Allyn K. Sloat eds, 1991. *Christian Education: Foundations for the Future*, Chicago, Moody Press.
- Collins, Gary, ed. 1976. *Facing the Future: Church and Family Together*. Waco: Word Books.
- Durka, Gloria and Joanmaries Smith,ed. 1980. *Family Ministry*. Minneapolis: Winston Press.
- Feucht, Oscar E. 1960. *Helping Families Through the Church*. Saint Louis: Concordia Publishing House.
- Gangel, Kenneth O. and James C. Wilhoit ed. 1996. *The Christian Educator's Handbook on Family Life Education*. Grand Rapids: Baker Books.
- Guernsey, Dennis B. 1982. *A New Design for Family Ministry*. Elgin: David C. Cook Publishing Co.
- Hinkle, Joseph W. and Melva J. Cook. 1978. *How to Minister to Families in Your Church*. Nashville: Broadman Press.
- Howell, John C. 1984. *Church and Family Growing Together*. Nashville: Broadman Press.
- Kettler, Christian D. and Todd H. Speidell, ed. 1990. *Incarnational Ministry: The Presence of Christ in Church, Society, and Family*. Colorado Springs: Helmers & Howard Publishers Inc.
- Leonard, Joe, Jr. 1982. *Planning Family Ministry: A guide for a teaching church*. Valley Forge: Judson Press.
- Lovelace, Richard F. 1979. *Dynamics of Spiritual Life*. Dowers Grove: InterVarsity Press.
- Milne, Bruce. 1982. *Know the Truth*. Downers Grove: InterVarsity Press.
- Money, Royce. 1984. *Building Stronger Families*. Wheaton: Victor Books.
- Money, Royce. 1987. *Ministering to Families: A Positive Plan of Action*. Abilene: Abilene Christian University Press.
- Rickerson, Wayne E. 1978. *How to Help the Christian Home*. Glendale: Regal Books.
- Sell, Charles M. 1995. *Family Ministry: Second Edition*. Grand Rapids: Zondervan Publishing House.
- Zuck, Roy B. and Gene A. Getz, ed.1970. *Adult Education in the Church*, Chicago: Moody Press.

〔著者紹介〕



松原 洋満 (まつばら ひろみつ)

1960年、岐阜県生まれ。筑波大学で心理学専攻。東京基督教短期大学で神学を学ぶ。アメリカ、ゴードン・コンウェル神学大学院(M.A.)、トリニティー国際大学(Ph.D.)でキリスト教教育を学ぶ。神奈川県川崎市にある日本同盟キリスト教団登戸教会牧師。東京キリスト神学校講師。2児の父。著書に「楽しい！発見&体験ゲーム」(CS 成長センター)、「かがやけ☆クリスチャンキッズ」(日本同盟基督教団教会教育部、共著)、「聖書が教えている家庭生活・社会生活」(日本同盟基督教団教会教育部、共著)がある。エッセイ、メッセージ、論文などを「のぼりと教会」ホームページで公開中(<http://homepage3.nifty.com/noborito-church/>)。

---

ファミリーミニストリー 幸せな結婚と家庭のために

2011年1月1日発行

著者 松原洋満

発行者

発行所

---

©Matsubara Hiromitsu 2011

Printed in Japan